

2018 年度(平成 30 年度)

事業報告書

学校法人 山梨学院

# 1 法人の概要

## 1 設置する学校・学部・学科等

- 山梨学院大学大学院 社会科学研究科公共政策専攻
- 山梨学院大学 法学部法学科・政治行政学科、経営学部経営学科、健康栄養学部管理栄養学科  
国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科、スポーツ科学部スポーツ科学科
- 山梨学院短期大学 食物栄養科、保育科、専攻科保育専攻
- 山梨学院高等学校 普通科
- 山梨学院中学校
- 山梨学院小学校
- 山梨学院幼稚園

## 2 学部・学科等の入学定員、学生数の状況（2018（平成30）年5月1日現在）

### ■ 山梨学院大学大学院

研究科名	専攻名	入学定員	入学者数	収容定員	現員		
					計	男	女
社会科学研究科	公共政策専攻	20	6	40	23	16	7

### ■ 山梨学院大学

※1：経営情報学部は平成28年度から学生募集停止、※2：スポーツ科学部は平成28年度開設

学部名	学科名	入学定員	入学者数	収容定員	現員		
					計	男	女
法学部	法学科	200	267	820	985	805	180
	政治行政学科	170	167	680	698	559	139
現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	200	249	800	931	627	304
経営情報学部（※1）	経営情報学科	—	—	150	143	104	39
健康栄養学部	管理栄養学科	40	48	180	182	21	161
国際リベラルアーツ学部	国際リベラルアーツ学科	80	28	320	129	61	68
スポーツ科学部（※2）	スポーツ科学科	170	197	510	587	390	197
合計		860	956	3,460	3,655	2,567	1,088

### ■ 山梨学院短期大学

学科名	入学定員	入学者数	収容定員	現員		
				計	男	女
食物栄養科	100	80	210	161	12	149
保育科	150	165	300	321	17	304
専攻科保育専攻	25	21	40	40	7	33
合計	275	266	550	522	36	486

### ■ 山梨学院高等学校

学科名	入学定員	入学者数	収容定員	現員		
				計	男	女
全日制課程普通科	360	347	1,080	1,025	579	446

### ■ 山梨学院中学校

入学定員	入学者数	収容定員	現員		
			計	男	女
111	76	333	243	128	115

## ■ 山梨学院小学校

入学定員	入学者数	収容定員	現員		
			計	男	女
66	75	396	423	216	207

## ■ 山梨学院幼稚園

収容定員	現員		
	計	男	女
400	213	102	111

## 3 役員・評議員、教職員の人数 (2018 (平成 30 年) 年 5 月 1 日現在)

■ 役員・評議員 理事 7 名 (常勤 6 名、非常勤 1 名)、監事 2 名 (非常勤 2 名)、評議員 15 名

■ 教員 [大学院・大学] \*社会科学研究科専任教員は学部専任教員が兼任

	専任						非常勤	合計
	教授	准教授	講師	助教	助手	小計		
社会科学研究科	(13)	(1)	0	0	0	(14)	2	2
法学部	32	6	2	0	0	40	37	77
現代ビジネス学部	13	8	2	0	0	23	15	38
経営情報学部	7	6	1	0	0	14	17	31
健康栄養学部	4	5	0	1	5	15	12	27
国際リバーラーツ学部	11	8	5	0	0	24	20	44
スポーツ科学部	14	5	3	0	2	24	9	33
合 計	81	38	13	1	7	140	112	252

### [短期大学]

	専任						非常勤	合計
	教授	准教授	講師	助教	助手	小計		
食物栄養科	7	3	2	1	3	16	17	33
保育科	12	2	6	0	0	20	19	39
合 計	19	5	8	1	3	36	36	72

### [高校・中学校・小学校・幼稚園]

	専任	非常勤	合計
高等学校	68	32	100
中学校	20	2	22
小学校	27	0	27
幼稚園	14	8	22

## ■ 職員

	専任	非常勤	合計
大学院・大学	25	5	30
短期大学	7	3	10
中学・高校	10	2	12
小学校	7	2	9
幼稚園	7	6	13
法人本部・その他	76	39	115
合 計	132	57	189

## 2 事業の概要

### I 学園づくりの目標と事業の展開

学校法人山梨学院の2018（平成30）年度「学園づくりの目標」及び「重点目標」は次のとおりであった。

#### 1 学園づくりの目標

「個性派私学の雄」「未来型学園のモデル校」「地域文化の創造拠点」を目指し、活力あふれる学園づくりを推進するとともに、「山梨学院新時代」への展望を拓く。

#### 2 重点目標

幼児教育から高等教育までの学校体系一貫を生かした総合学園として、山梨学院ならではの教育活動を推進し、ブランド化の一層の強化・充実を図る。

学園を支える三つの柱として「グローバル化への対応」「スポーツ文化の振興」「教育力の山梨学院」を掲げ、「未来型学園の創造」を目指して主体的な学びを展開し、教職員と学生生徒等が一体となった意欲的な教育実践を積み上げ、学びの楽しさを実感できる、存在感のある、個性輝く学園の創造に努める。

- (1) 各学校種における独自ブランドの創出と強化
- (2) 学生生徒等の学習支援の充実と体系的なキャリア教育の推進
- (3) 産・官・学連携の拡充と地域・社会貢献機能の強化
- (4) 強化育成クラブの更なる充実・発展とスポーツ科学部との連携、文化活動の振興
- (5) 地域社会の活性化・課題解決と本学の本来業務活性化との相互循環
- (6) 情報環境を活用した教育支援・学修支援の推進
- (7) 大学のグローバル化、キャンパス内における国際交流活動の推進

### II 2018（平成30）年度の各所属・部署の主要事業等

各所属において、事業計画に基づき、様々な事業・教育活動が展開された。次にその主たる事業の進捗状況と成果を掲げた。

#### 1 法人・大学等の管理・運営に関する事項

##### [総務部 総務課]

1	事業名	登記、届出
	進捗状況	役員（理事長・理事・監事）の変更、大学経営情報学部経営情報学科・大学院法務研究科の廃止に伴い、登記及び各種届出を遅滞なく行った。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	2018年度の登記及び届出は、以下のとおり。 2018.4.1 代表者登記【理事長変更】（法務局） 2018.4.1 寄附行為変更登記【法務研究科削除】（法務局） 2018.4.9 園則変更届【幼稚園】（山梨県） 2018.4.9 寄附行為変更届【法務研究科削除】（山梨県） 2018.4.13 役員変更届（文部科学省） 2018.4.17 登記事項変更登記完了届【理事長変更、法務研究科削除】（文科省） 2018.4.27 登記事項変更届【理事長変更、法務研究科削除】（山梨県） 2018.4.27 学校法人事等就任届（山梨県） 2019.3.26 寄附行為変更届【経営情報学部経営情報学科削除】（文科省）
2	事業名	規程集の整備
	進捗状況	2018年度は計143件の制定・改廃があり、規程集システムへ収録するとともに、2019年4月1日の事務組織・職名変更に向けた諸規程の制定・改廃作業を実施した。

	<p>成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕</p> <p>迅速な電子規程集へのアップを目指したが、年度の切替時期については膨大な作業数に及んだことに加え、複数の諸行事運営と重なったことにより時間をしてしまった。 2019年度はシステムの変更を予定しており、多彩な機能により事務作業量の大幅な軽減が見込まれるため、迅速な公開や規程間の整合性を図りたい。</p>
3	事業名 危機管理体制の強化
	進捗状況 「危機対応基本マニュアル」の見直しを行い、気象庁発表の気象警報・注意報や公的機関からの安全配慮に関する情報に留意し、教職員・学生等への安全確保に努めた。 教育研究活動中の第三者に対する事故対応も、賠償責任保険により迅速に対応した。
	<p>成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕</p> <p>気象予報や所轄庁等からの通達に留意し、学内一斉メールにより教職員・学生等の安全確保に努めた。2018年度中の注意喚起は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台風接近に関する注意喚起（4回）</li> <li>・サリン噴霧予告に関する注意喚起（1回）</li> </ul>
4	事業名 施設及び設備の貸与
	進捗状況 本学の教育・研究活動に支障のない範囲で、公的団体への施設貸与を行った。複数混在していた施設利用に関する規程を一本化すること、長年据え置きとなっていた施設利用料金を改定することについて検討し、2019年4月1日の貸出分から料金を改定することが決定した。
	<p>成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕</p> <p>学内行事を最優先として、学外の公的団体からの利用申込みを受けている。利用申込みや料金請求についても公平性を保って対応している。しかし、施設の予約状況確認は電話で、利用申込みについても書面で提出いただいているため、担当者の事務作業量が煩雑になっている。今後は、利便性向上及び事務作業の軽減を図るためにもシステムの導入を検討していきたい。</p>
5	事業名 内線電話の携帯電話化
	進捗状況 全学的な働き方改革の推進を行うことと個人の携帯電話を業務に使用している状況を鑑み、内線電話を携帯電話化について検討を重ね、2019年4月1日から、酒折キャンパスの専任・常勤嘱託職員を中心内線電話が携帯電話に変更されることが決定した。
	<p>成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕</p> <p>働き方改革及び業務改善につながる試みとして新たに実施することになった。まずは酒折キャンパスの専任・常勤嘱託職員が中心となっているが、運用状況をみながら順次対象者を拡大していく予定である。</p>

## [総務部 人事課]

	<p>事業名 教職員人事</p>
1	<p>進捗状況 学園全体のグローバル化を推進する組織改編の取り組みにより、採用及び異動等の教職員人事について、特に職員採用に関しては、中途採用による豊富な経験をもった人材の確保など積極的にすすめることができた。</p>
	<p>成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕</p> <p>グローバル人材の採用に伴い、採用時の諸種手続きについては、国際的な視野に立って手続きをすすめることができた。 褒章については、法人本部及び所属関係者協力の下、2018（平成30）年度辞令交付式で滞りなく表彰等を行うことができた。 人事システムの改善については、学園全体のITプロジェクトと連動して、詳細な改善作業が継続しており、今後の人事制度改革とともに推進していく。</p>
	<p>事業名 労務管理、教職員委嘱・派遣</p>
2	進捗状況 働き方改革推進に伴い、各職場の安全衛生を中心とした対応を図っている。
	<p>成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕</p> <p>働き方改革に伴う諸種対応については、年度内幾度となく検討（業務内容の見直し、ノー残業の推進等）を図り、様々な機会に説明を行った。このことについては2019年度以降も継続していく。 従前より手続きのある、本学教職員に係る「委嘱」「派遣」事業の事務手続きに関して滞りなく対応することができた。特に派遣事業は、本学の社会貢献事業にも資することから、引き続き適正な手続きを行っていく。 人事システムの改善については、学園全体のITプロジェクトと連動して、細かい改善作業が継続しており、今後の制度改革とともに推進する。</p>

3	事業名	福利厚生、教職員給与、社会保険業務
	進捗状況	定例事務手続きに資しながら、他業種との比較や社会通念上の取り扱い、法人の経費削減の方向性を鑑みながら、一定の見直しを図っている。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	法令改正に伴う新しい就業規則にも対応しながら、有給休暇等取得しやすい「職場の文化」の醸成を図っている。 教職員給与等に関しては、時代に応じた福利厚生の充実策を検討している。特に未来への先行施策としては、扶養、子女に対する福利厚生の部分に対しては、厚くしていく方針で推進していく。 日本私立学校振興・共済事業団、厚生労働省（ハローワーク）等と連携を図り、各種社会保険に対応した定例事務手続きに資することができた。
4	事業名	教職員研修
	進捗状況	年間計画を立てて、教職員の育成につなげることを目標に推進した。大学 LED センターや短期大学と協働を図り、活発な FD、SD 活動までの完全目標には至っていない。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	学内研修については、学内研修区分全ての要素（新任・職階・テーマ）を含み、職員実務研修会を昨年度に引き続き開催（2018 年（平成 30）年度全 9 回）し、学内関係所属の協力を得て全ての回を無事に終了した。 自己啓発助成を利用しての研修は、今後、適用者の増加に資するよう制度の見直しを図っていきたい。2019 年度は大学 LED センターとの一層の協働を図っていく。
5	事業名	各種調査、報告
	進捗状況	外部機関及び学内他所属からの依頼による調査、報告（毎年度、臨時）について、滞りなく報告ができた。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	年間を通して膨大な量の調査・報告書等の処理について、事務手続きを滞りなく行うことができたが、課内の業務量削減も検討していかなければならないので、手続きの電子化を検討、課内業務全体の見極めもしていきながら、調査・報告のためだけに全体業務へ支障をきたさないよう注意していく。

#### [パブリシティセンター 広報課]

1	事業名	山梨学院パブリシティの運営推進
	進捗状況	<p>(1) ニュースパブリシティの推進強化</p> <p>①マスメディアへの仕掛け（取材配信、取材依頼）            「配信」25 件&lt;文化・教育 68%、スポーツ 32%&gt;（昨年度 20 件）            「依頼」164 件&lt;文化・教育 57%、スポーツ 43%&gt;（昨年度 102 件）</p> <p>②マスメディアの取扱件数            「新聞」1785 件&lt;文化・教育 18% スポーツ 79%&gt;（昨年度 1883 件）            「テレビ」802 件&lt;文化・教育 27% スポーツ 66%&gt;（昨年度 711 件）</p> <p>(2) ハーフパブリシティの推進</p> <p>①「テレビ特集タイアップ」            山梨放送 3 回（昨年度 3 回）、テレビ山梨 2 回（昨年度 5 回）</p> <p>②「新聞記事タイアップ」            スポーツ報知 全国 2 回・東日本 1 回（昨年度 全国 1 回・東日本 1 回）、日刊スポーツ 全国 3 回・東日本 1 回（昨年度 全国 3 回・東日本 1 回）、サンケイスポーツ本州 1 回・東日本 1 回（本州 1 回・東日本 1 回）</p> <p>③「ラジオタイアップ」            YBS ラジオ 12 回（昨年度 12 回）、エフエム甲府 84 回（昨年度 84 回）</p> <p>(3) 山梨学院ニュースファイルの充実</p> <p>(4) SNS による恒常的な情報（ニュース）発信</p>

	<p>成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕</p> <p>山梨学院固有の文化であるニュースパブリシティについて推進強化するため、定期的に報道機関への訪問を行い、顔の見える関係を構築。件数については、テレビは目標としていた件数（500件）を超えたものの、新聞については、目標件数（1800件）に僅かに及ばなかった。どちらもスポーツが件数をけん引していたが、特に新聞については、高校サッカー（選手権）の出場可否が若干（過去実績約40件）だが全体件数に影響している。</p> <p>ニュースファイルについては、限られた予算で最大限のニュースリリース（ニュースファイル掲載）ができるよう、情報の取捨選択を行い、182件（目標200件）の掲載となった。一方、新たな試みとして、SNS（Facebook、Instagram）での恒常的な情報（ニュース）発信を実施し、ニュースファイル等への誘導を実施した。</p> <p>次年度は現地からの即応性のあるニュース発信に取り組む。</p>
2	事業名 広報スタジオの運営
	<p>進捗状況</p> <p>クリスタルスタジオ利用件数 310件（昨年度343件）</p> <p>（1）学校見学の拠点として、入試センター・強化育成クラブなどによる見学利用・ゼミや授業などでの活用等</p> <p>（2）地域文化活動におけるスタジオ貸し出し</p> <p>NPOや公的機関貸し出し件数 40件（昨年度50件）</p> <p>（3）大型マルチビジョンや関連視聴覚機材の更新</p> <p>9月に更新・入替を実施</p>
	<p>成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕</p> <p>入試広報や取材・記者会見、授業利用、外部団体への貸し出し等など幅広い利用があった。</p> <p>利用件数も昨年の350件から424件と大幅な増加。増加の大きな要因は、メイン什器（大型マルチビジョン）の更新によるものと推測している。9月に機器更新を実施し、9月以降の利用は前年度20%増。機器更新に伴う、施設貸し出しの休止期間も関係業者と調整し、3日間のみで、当初目標としていた300件の貸し出しを上回る結果となった。</p> <p>引き続き、展示内容の刷新・リニューアル等を行い、魅力ある施設運営を行っていく。</p>
3	事業名 他所属との連携（広報宣伝）
	<p>進捗状況</p> <p>山梨学院ブランド構築の一環として、他所属と連携し戦略的に広報宣伝を実施。</p> <p>（1）教育実践・教育概要等を新聞・テレビ・雑誌等を通じ広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東洋経済『本当に強い大学2018』出稿</li> <li>・週刊ダイヤモンド出稿</li> </ul> <p>（2）全国大会出場記念誌発行協力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・甲子園出場記念誌</li> <li>・全国高校駅伝出場記念誌</li> </ul> <p>（3）ブランド広報「寄付金募集」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレット、動画制作</li> </ul>
	<p>成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕</p> <p>学内各所属と連携し、山梨学院教育ブランド強化のための広報活動を実施。雑誌媒体においては、全学的国際化を前面に打ち出した記事広告を出稿。この他、ハイスクールスポーツ振興の支援として全国大会出場記念誌の制作支援も実施した。</p> <p>さらに、今年度は法人本部と連携し、寄付金募集のためのパンフレットや動画の制作も実施。</p> <p>次年度についても常に広報内容・媒体の精査を行い、他所属と協業し効果的に媒体を活用した山梨学院教育ブランドの広報活動を推進していく。</p>
4	事業名 酒折連歌賞（メセナ事業）
	<p>進捗状況</p> <p>メセナ広報の一環として、地域文化の創造、文学の振興等に寄与するため酒折連歌賞を運営。</p> <p>（1）「第二十回酒折連歌賞」を運営・実施</p> <p>募集期間：平成30年4月1日～9月30日</p> <p>表彰式：平成31年2月10日</p> <p>応募句数 45,858句</p> <p>応募国数 日本・中国・マレーシア・アメリカなど9か国</p> <p>（2）『言の葉連ねて歌あそび4』発刊準備</p> <p>角川文化振興財団（角川学芸出版）との連絡・調整</p>

[財務部 会計課]

1	事業名	収支状況改善方策の検討について
	進捗状況	収支差額のマイナスは改善傾向にあるが、プラスに転換すべく継続中である
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	収支状況改善のため予算編成時に経費節減の基本方針を明示し、前年比 収支状況改善の予算を編成した。ただし組織の改編に伴う職員採用により人件費は当初予算よりも増加している。部門別の収支分析を行い、より細かに学校別の収支を把握して収支改善に役立てている。
2	事業名	YGU HOUSE 建設に係る市中金融機関からの借入について
	進捗状況	2019年3月20日に山梨中央銀行より7億円の融資が実行された
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	安定的な留学生確保のため YGU HOUSE (学生寮) を建設したが その支払資金として7億円を山梨中央銀行から 25年返済で当初 10年間 0.4%の固定金利で借入れた。 留学生確保が順調に進行すれば、更に第2 YGU HOUSE の建設も計画されており、その際も低利で長期返済期限の借入れを検討していきたい。
3	事業名	収入増加対策の寄付金について
	進捗状況	ネット利用による寄付金受付等、寄付をしやすい環境づくりを実施している
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	2017(平成29)年度より開始した、インターネットによる寄付金収納の仕組みを本年度も、高校の夏春の甲子園出場時の寄付金受付に活用した。さらに寄付金の税額控除の説明や画面を見やすくするなど、寄付をしやすい環境づくりを充実させて行く。
4	事業名	効率的な資金運用について
	進捗状況	2018年11月30日に880,201.20ドル(約1億円)で米国債を購入した
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	2016(平成28)年度より長期運用を前提とした資金運用を開始して、2年間は外資系信託会社での運用(約2億円)を実行してきたが、本年度は、三田証券を通じて、米国分離型国債(2045年2月15日償還)をUSドル建てで購入した。これには円のみの単一通貨での運用リスクを回避する狙いもある。

[施設部]

1	事業名	「甲斐の古道」起点公園 築造工事 (甲斐の古道 歴史公園)
	進捗状況	2018年度に着工し 2019年度5月22日に完成予定
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	今年5月24日(金)に完成披露式を挙行し、県内外の皆様に古道の存在を発信できると信じている。これから先は古道歩きを企画し、より多くの県民に当公園を起点として街道歩き進めてほしい。将来2期、3期と造成を進め公園の機能を充実させたい。
2	事業名	砂田富士見寮新築(第2砂田富士見寮)
	進捗状況	2018年6月完成
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	6月5日竣工式を実施し、早々入居を開始した。新たな高校の体制強化に貢献する建物としてその役割を果たしてくれる。設計者の能力向上が今後の課題であった。
3	事業名	砂田国際学生寮新築(YGU HOUSE)
	進捗状況	2019年3月完成
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	山梨学院大学の新たな挑戦として、東アジア特に中国の留学生を受け入れる施設として新築した。中国の若者が多く入居をし、次のステップ(2期工事)に早期に着手したい。
4	事業名	各棟トイレ改修(40号館1階)
	進捗状況	2018年9月完成
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	30年を経過した当建物であるが、設備の経年劣化は建物本体よりも早期にその機能が衰える。特に水回りは機能・見た目共に時代の要請に応えられない状況に陥る。今回の改良工事が息の長い改良である事を願う。今後更にトイレ改良工事を実施して行く。

5	事業名	中高8号館改修
	進捗状況	未実施
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	当初、計画した内容では根本的な改良が出来ない事が判明したため、再度1から計画し実施したい。
6	事業名	中高テニスコート人工芝更新
	進捗状況	2019年2月完成
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	14年を経過したテニスコートで、今回の改良により機能・見た目共にリフレッシュできた。中高のキャンパスは手狭で体育施設も例外ではない。 今回改良したテニスコートは中学・高校生のモチベーションの向上に貢献できたと考える。ここを拠点に生徒の活躍に期待したい。
7	事業名	空調機更新
	進捗状況	2018年度中に故障が発生し、年をまたいで2019年度4月完成した。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	年々増加する設備の劣化は深刻な状態にある。今年は蓄熱槽を持つ空調機での故障で、幾つかある熱交換器の一部が機能を停止し部品の供給まで長時間を要した。幸い暖房時期であったため仮設暖房で対応できたが、冷房時期の故障では、仮設対応が出来ないため、今後の対応に宿題を残す。

## 2 大学院・大学における教育・研究活動等に関する事項

### [教務部 教務課]

1	事業名	新たな教育条件整備への展望
	進捗状況	概ね良好である。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	【成果】教育面では、学習・教育開発センター運営委員会の月次会議を事務連携部署としてサポートし、FD体制の構築、高大連携事業の推進、ピア・サポート組織の運営、卒業時学生アンケート（回収率100%）の実施等の、教育改革事業を行った。施設・設備面では、新9号館・40号館について、アクティブ・ラーニングを実現する改修プランについて、経営・執行部・教学の三者をつなぐ学内調整を行った。 【課題】教務課からのサポート体制を増員し、教育の質保証と学内関係調整の両面からより活力ある実質的なサポートを展開したい。
2	事業名	新時代の教育に相応しい本学の具現化
	進捗状況	進捗は未だ初期段階である。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	【成果】教務委員会をはじめ、全学検討機会となっている各種委員会について事務連携部署として業務推進をサポートした。 また、専門職員養成として、「カリキュラム設計担当者養成プログラム：初級（2018.9.13主催：九州大学）」への教務課職員派遣を行った。 【課題】カリキュラムのスリム化については、留学生増を受けた課程の再検討を踏まえ、次年度内に教学組織がアウトラインを持てるよう、全学委員会や執行部にデータ提供を行う。SDについては、教務課職員のリテラシー向上とコンピテンスの発展を目標とし、教学組織、ひいては大学機関へのベネフィットとして政策遂行型の職員養成を課内SD・学外SDを通して展開する。
3	事業名	EMを活用した大学IRの推進
	進捗状況	実態を伴う形では行なえていない。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	【成果】教務課として組織的にエンロール・マネジメントの活用を推進したことではなく、大学のIRについても、同様である。今後は、実態を伴う教学マネジメントを推進する必要がある。 【課題】大学教育の変革にあって、その必要性を「データから語る」教務サービスを目指す。教務情報システムのデータ管理と学内共有について、属人的業務から組織体制への整備を進める。

	事業名	地域連携の推進
	進捗状況	概ね良好であるが、分掌整理が望ましい。
4	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	【成果】教育免許状更新講習の運営支援を通じ、地域的な教育力の維持、向上に貢献した。山梨県や甲府市、笛吹市等との包括的連携協定を活用した教育を通して、理論と地域実践をつなぐ高等教育機関の役割を果たしている。また、山梨大学を代表校とする COC+（地・知）の拠点大学による地方創生推進事業）にも幹事校として参画し、地域の雇用創成に寄与している。加えて、2019年3月には、本学の地域連携科目を用いて内閣府補助事業へ他大学と共同申請を行った。
		【課題】地域連携について、今後もその重要性が高まることは明白であり、学内課室連携の構築と教務課の増員をベースとした分掌整理を行いたい。
5	事業名	学生サービスの向上
	進捗状況	さらなる検証が必要となっている。
5	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	【成果】保護者相談会については、その実施にあたって事務サポートを行い、学生本人への意欲向上と保護者の本学への理解を深める機会となった。ただし、組織的な学生支援体制が構築されているとは言い難く、課室内及び学内の連携部署との業務のすみ分けや、整理を随時実施し、支援体制を再構築することを更に推進する必要がある。
		【課題】成績を中心とする学生に関するデータは、一定のルールのもとでより広く学内活用を進める必要がある。

### [大学院 社会科学研究科]

	事業名	地域貢献の充実強化
	進捗状況	法学系の充実要望に対応して、2017年度、2018年度と法律科目の充実を行った。その定着とともに、経営系科目の充実の検討を行った。
1	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	法律科目の充実を定着させた。同時に、経営系科目の充実の検討を行った。ただし、成案には至っていない。留学生を考慮すれば、早急に整備することが必要である。 ローカル・ガバナンス研究センター、ローカル・ガバナンス学会と連携して地域住民・企業等のための研究会を行った（共催）。引き続き行うとともに、経営学研究センターとの連携強化を行う。
2	事業名	正規生定員の安定的確保
	進捗状況	2018年度入試に次いで2019年度入試でも、定員を大幅に下回った。税理士志望者の入学者は復活したもの、留学生志願者の減少、公務特待生ゼロ人ということが大きな理由であった。 海外提携大学との推薦制度を確立した。
2	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	留学生志願者が大幅に減少している。その開拓を進める。引き続き海外提携大学との推薦制度の拡大を行う。 また、行政機関や議会回りを行って宣伝をした。今回は公務特待生がゼロであったが、効果もないわけではない（諸般の理由で2名は研究生・科目等履修生となった）。 税理士志望者は2名入学したが、引き続き税理士会等に宣伝を行う。 2019年度の研究生は14名である。研究生を正規生にする手法を開発する。
3	事業名	研究科のあり方に関する検討
	進捗状況	法律科目の充実のための新設科目を設置した。
3	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	大学全体を取り巻く状況を踏まえた現行カリキュラムの見直しを大学院改革委員会で議論した。早急に、学部の改革と連動した改革を検討し、実施する。
4	事業名	修士論文に代わる「特定の課題(研究)の成果」(研究レポート)についての検討
	進捗状況	大学院学則に記載の修士論文に代わる修了要件「特定の課題(研究)の成果」(研究レポート)の必要性について検討したが、結論にはいたっていない。
4	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	数年にわたって検討している。他大学の動向なども参考して、2019年度中に結論を出す。

5	事業名	研究教育環境の整備
	進捗状況	教育環境の問題点については、院生アンケートによって把握した。演習室の増加などを関係部署と協議したが、2018年度は実現していない。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	演習室の不足に加え、院生用メールボックスの新設整備、図書資料の充実、文献コピー費用の補助等を求める声もある。そこで関係部署との協議を行い、教育環境の整備に努める。

### [大学 法学部法学科]

1	事業名	保護者相談会
	進捗状況	2018年9月29日(土)に開催された。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	(1) 従来と比較して出席件数が少なかった点については(28件)、今後通知書面の内容や方法を工夫することで対応することが考えられる。 (2) 志願者の確保という目的との関連では、新入学生255名という数字によりほぼ目的を達成できたと考えられる(もちろん当該事業との精確な因果関係は不詳)。
2	事業名	キャリア関連教育の充実
	進捗状況	学科としての進捗は概してあまりない。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	(1) 学科内で就職キャリア委員が主導してインターンシップ情報のためのアンケートが実施されたが、その結果の活用については議論が十分でない。 (2) 公務員・法科大学院対策室については、少なくともその枠組自体を存続させて、公務員等の進路確保に寄与する必要がある。 (3) 就職キャリアデータベースにつき学科として必要性は認識されているため、作成に向けて検討を予定している。
3	事業名	ディプロマ・ポリシーと明確に関連づけられたカリキュラム執行
	進捗状況	とくに「法学共同演習」を実施中で、これをカリキュラム改革の核としている。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	(1) 法学共同演習1年目の総括が行われて(2019年3月)報告書が提出され、今後の問題点等が呈示された。2019年度中にはディプロマ・ポリシー達成度評価方法を確立する必要がある。 (2) PROGテスト結果の活用に関しては、カリキュラム改革全体との関連で検討する。
4	事業名	法学科情報対外発信の強化
	進捗状況	法学科ブログが閉鎖されたが、InstagramやYouTubeにより積極的に発信を行っている。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	(1) 法律学習カウンセラーについては、消費者問題についての講師として「法学」に招聘したが、今後も類似の活動を検討する。 (2) Instagram等との関連性は不詳だが、新入学生の女子比率が21.6%となり、当初目標の25%に近づいた。
5	事業名	学科運営全般へのPDCAサイクル実施
	進捗状況	かなり綿密な自己点検評価活動を通じて学科運営の省察がなされた。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	(1) 当初半期毎の自己点検評価活動が想定されたが、その後の学科の合意により年度ごとにより仔細に行うことに入れられ、実現された。 (2) 他方で、自己点検評価の担当委員間で業務執行に差があったため、各種資料の共有フォルダ保管等も含めて業務遂行の徹底を図る。

### [大学 法学部政治行政学科]

1	事業名	社会とのインターフェイスに配慮した教育課程の改革
	進捗状況	ある程度の進捗を見た。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	各教員が、ディプロマ・ポリシーに配慮し、シラバスで各科目の学ぶ意義と目的を明確にした。また、専門科目を持つほとんどの教員が、その科目内容を社会人基礎力に考慮したものとした。さらに、FD研修とは銘打たないものの、学科会議でも議論を行った。

	事業名	地域課題の解決・緩和を志向した科目・演習内容の充実
2	進捗状況	ある程度の進捗を見た。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	「市長特別講義」の内容を昨年以上に充実し、関係市に対し受講者による政策提案を行った。 また、ローカル・ガバナンス研究センターと連携し、3つのゼミが昭和町議会の議場において同町に対し具体的な条例提案を行った。各ゼミでも地域の課題について論じることを心がけてきた。
	事業名	アクティブ・ラーニングのより一層の充実強化
3	進捗状況	ある程度の進捗を見た。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	L E Dセンターが主導する基礎演習は言うに及ばず、各専門演習・各教科においても、例年以上にアクティブ・ラーニング（A L）の要素を強化した。例えば、反転学習の要素を取り入れた教科もあった。しかし、受講者の多い教科もあることから、これらの科目のA L強化が課題として残っている。
4	事業名	公共理念に裏打ちされた公務員合格者の増大
	進捗状況	進捗を見た。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	公務員試験対策（個別面接、論文・面接指導等）を強化したゼミやM E E Tコーナー（公務員試験対策）を増やす科目もあったことなどから、学科の公務員合格者は、目標とする30名を超え、34名となつた。 今後は、新法学部への移行に向けて合格者の増大に引き続き努めていきたい。
5	事業名	総合的な学科入試対策の推進
	進捗状況	ある程度の進捗を見た。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	法学科と協働でオープンキャンパスを進めるとともに、学科の入試対策委員会で面接における評価方法などについて協議し実践してきた。こうしたことにも功を奏し、学科定員を上回る入学者となった。 しかし、2019年度から本学科は募集停止となることから、今後は法学科の入試対策に協力していくきたい。

### [大学 現代ビジネス学部現代ビジネス学科]

	事業名	コンピテンシーの育成
1	進捗状況	・平成31年度から経営学部がスタートすることを踏まえ、学部の行動目標として「コンピテンシー育成を目的としたカリキュラムの再構築」を掲げ、経営系学部改革検討委員会、初年次教育委員会、2年次教育委員会、専門演習委員会、学年担任委員会がそれぞれ役割分担しながら学部行動計画に基づき事業を進めてきた。 ・初年次教育委員会、2年次教育委員会、専門演習委員会、学年担任委員会において個別の取り組みは予定通り進められた（新入生キャンプの企画・準備、専門演習入門の設置および評価ループリックの作成、学生カルテの活用等）。 ・ただし、学部全体として、今後どのようにコンピテンシー育成を進めていくのか、学部運営・将来構想委員会において十分な検討は行われなかった。また、同委員会がPDCAサイクルを回していく体制も確立されなかった。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	・新事業として新入生キャンプの企画・準備をおこなった。 ・PBL型の専門演習入門Ⅰ・Ⅱを2年次に設置し必修とした。 ・個に対応した指導を促進するため、学生カルテの閲覧権限を拡張するとともに、各演習と連動させる体制を整えた。 ・コンピテンシー育成に関して学部としてどのように取り組むのか、具体的な取組みを起案し着実に実行していくとともに、各取組みの位置づけを明確にする必要がある。 ・学部での教育を通じてコンピテンシー育成がどの程度達成されたのか、体系的に評価する必要がある。そのために、今年度中に学部のアセスメント・プランを策定し、次年度より実施する。 ・今年度、上記項目を着実に実行するために、学部運営・将来構想委員会を機能させ、学部のカリキュラム・マネジメントを適切に行う。

	事業名	オープンキャンパスの充実
2	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月実施の回も含めて、年度内に7回のオープンキャンパスを開催し、前年度比6.3%増の2,350名の参加者を記録した。</li> <li>・特に保護者の参加増が顕著となり前年比51.8%となった。</li> <li>・ただし受験生本人の参加者数は5.7%減少した。</li> </ul>
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回のイベントでターゲット層を明確に設定し、その対象者に何を伝えるか、というスタイルは定着しつつあるものの、効果が確信できるようなコンテンツを創りあげるには至っていない。</li> <li>・在学生が主役となり、自主的に大学の魅力を伝えるイベント企画を実施する体制を整えていく。</li> <li>・これまでの主催者視点で組み立てたプログラムから、参加者の自由度が高くなるプログラム編成に切り替えて、参加者満足度や参加リピート率の向上を目指す。</li> </ul>
3	事業名	産学官連携の強化
	進捗状況	<p>5つのゼミで、東京地方税理士会、国交省、JR東日本、山梨県教育委員会、エームサービス、甲府市役所、市川三郷町役場と連携して活動した。この内、提携書を交わしている団体は、3団体であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業等や就職支援でも、6団体と連携して活動した。</li> </ul>
4	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標は、5つの団体と提携書を交わして連携していくことであったが、3つにとどまった。</li> <li>・多くの取り組みは行われたが、学部として組織的に行われているわけではないので、学部としていかに組織的に取り組んでいくかが今後の課題である。</li> </ul>
	事業名	地域貢献とCOC+への協力
5	進捗状況	COC+関連の授業である「地域課題総合研究」「フューチャーサーチ」や「合同JIBUN説明会」に本学の学生が多数参加した。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域課題総合研究」の受講者は24名、「フューチャーサーチ」の受講者は19名、「合同JIBUN説明会」の参加者は13名。</li> <li>・合計56名の参加者があり、目標の30人は達成した。</li> </ul>
5	事業名	社会人としての基礎的能力をつけるキャリア教育の推進
	進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職・キャリアセンターとタイアップしたキャリア支援策として1年生全員を対象にキャリア面談を実施。</li> <li>・正課内外で実施されているインターンシップの実態を調査し、改善策を検討。</li> <li>・進路調査の回答率向上をめざし就職・キャリアセンターと連携して周知を促進。</li> </ul>
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の学生について1年生の時点でのキャリア観、大学への適応、就学状況などについて学生カルテに記載し、教職員間での情報共有を推進した。</li> <li>・キャリア面談の質的向上についての検討を進め、翌年度の実施体制について刷新を図った。</li> <li>・次年度に向けて正課インターンシップ受講者数を向上させ、同時に教育の質を向上させる施策として、担当者・時間割・シラバスの刷新を実施。</li> <li>・収集した進路情報にもとづく個別対応の強化を実施するため、学部内での学生カルテでの所見の共有を強化。</li> </ul>

### [大学 経営情報学部経営情報学科]

	事業名	情報キャリア支援事業
1	進捗状況	多くの事業を予定通り遂行した。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>確実に国家資格・ITパスポート試験に前年度同様合格者を出した。</p> <p>また、民間最大資格であるMOS試験については、本学でのオンライン本試験を複数回実施し、多くの合格者を出した。</p> <p>今後ともIT資格取得者を増加させ、他学部も含めより多くの学生の就職に結びつけていきたい。</p>
2	事業名	「山梨テクノICTフェア」への参画
	進捗状況	学生とともに展示発表を行った。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	例年通りアイメッセにおいて、学生を中心に関開発ソフトなどの展示・発表を実施できた。大学のPRにもなったと考える。

3	事業名	ゼミ実践大会の実施
	進捗状況	学部の最終年度にあたる今回も学部当初から行っている「ゼミ実践大会」すなわち「卒論発表会」を開催した。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	例年通り、卒業論文の発表会を開催した。経営情報学部棟の複数の会場に分かれて多数の発表がなされた。なお、この発表会に際して作成された全員の卒論要旨を「卒論要旨集」として製本化し、卒業式の日に参加学生全員に配布した。また、今年度も最優秀論文者には、“スチューデントオブザイヤー賞”が与えられた。
4	事業名	インターンシップの実施
	進捗状況	予定通り実施・完了した。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	いち早く 25 年前の学部創設時から実施してきたインターンシップを最終年度の本年度も実施できた。例年通り、学生の就職キャリア支援に大いに役立ったといえる。
5	事業名	就職活動支援の継続強化
	進捗状況	就職キャリアセンターと協力して学部内就職支援委員会を中心に学生の就職活動を積極的に支援した。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	山梨県地域情報化推進協議会などの県内 IT 企業を中心とした企業団体との「ワークショップ」を学内で開催した。山梨の IT 企業の幹部役員などの方々御講演頂いた。 今後も就職キャリアセンターとも連携しつつ、就職実績に結び付けていきたい。 また、NTT 東日本の山梨地域採用も促して実績を得た。
6	事業名	スポーツアドミニストレーション教育の充実
	進捗状況	例年通り教育を着実に実施した。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	継続的にヴァンフォーレ甲府のホームゲームにおけるイベント運営を継続するとともに、山梨県体育協会、山梨県ラグビー協会、山梨県サッカー協会などの運営サポートに年間を通じて学生派遣を行った。今後ともさらに活動を拡充したい。 また、スポーツ関係資格の取得サポートにも尽力した。
7	事業名	アスリート教育指導の強化
	進捗状況	学部の委員会を中心にして、スポーツ強化選手の学修ならびに就職支援を着実に実施した。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	学部内のアスリート教育支援委員を中心にして、カレッジスポーツセンターの先生方と連携して、スポーツ強化選手の学生に対して、個別に綿密な学生支援を実施した。
8	事業名	経営情報論集の発行
	進捗状況	最終号の発行を完遂できた。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	「経営情報学論集・最終号」の製本・配布を実施するとともに、インターネット公開も果たした。

### [大学 健康栄養学部管理栄養学科]

1	事業名	教育 課程、教育内容の充実
	進捗状況	①各学年ガイダンス、入学式後保護者説明会、基礎演習等における教育理念・目的・目標の共有（目標 100%⇒実施率 100%） ②授業評価による授業内容の改善（目標 75%⇒実施率 78%） ③学部内 FD の実施（目標 100%⇒実施率 100%） ④実験・実習の充実を図るための環境整備（施設設備の改修と備品の整備）（実施率 100%）

	<p><b>成 果</b>            (自己点検評価、課題、改善策等)</p> <p>新学期の各学年ガイダンス及び保護者説明会において、教育の理念・目的、教育目標と教育課程編成との関係について周知した。また、1年生については後期の授業開始時にも建学の精神・大学の基本理念に触れる機会を設け、大学で学ぶ目的を考えさせる機会とした。</p> <p>授業評価による授業内容の改善については、卒業生や専門職からの提言も踏まえ、学部内において検討会を実施した。</p> <p>学部内 FD として、専門科目の類似内容について共通理解と連携を図り、授業内容の改善につなげた。</p> <p>実験・実習室の環境整備については、食品加工実習室は 2019 年度の改修に向けての提案と計画を立案した。その他実験室については、年次計画として改善を考えていく。</p>
2	事業名 主体的学修態度の育成
	進捗状況 ① 学生の授業外学修調査の実施（目標 100%⇒実施率 100%） ② 調査結果に基づいた学修活動に関する面談等の実施（目標 100%⇒実施率 100%）
	<p><b>成 果</b>            (自己点検評価、課題、改善策等)</p> <p>シラバスに予習復習の取り組み内容を示すとともに、専門科目では 3~5 回の小テストを実施し、学生に時間外での学修時間の確保を促した。また、定期試験後に試験講評を行い、各教科の理解度の向上と知識の定着を図った。</p> <p>食品関係の資格である「食品表示検定」については、授業外で学習・受験支援を行った。</p> <p>この他、学生の学修に関する調査を実施し、自主的な学修を確立するための指導資料として活用した。なお、教員が行った学修支援等の面談は 280 件であった。</p>
3	事業名 管理栄養士国家試験合格を目指した学習支援の整備
	進捗状況 ① 成績不振学生への学習指導の実施（目標 100%⇒実施率 100%） ② 模擬試験の効率的な実施（目標 100%⇒実施率 100%）
	<p><b>成 果</b>            (自己点検評価、課題、改善策等)</p> <p>管理栄養士国家試験に対する学習支援を目的として、1年生は春期に、2、3年生は夏期と春期に、4年生は夏期・冬期・春期に集中補習講座（択一試験及び補習講座）を実施し、各教科の知識の定着を図った。</p> <p>3 年の 2 月から 4 年前期において 7 回の校内模擬試験を実施し、授業外時間に科目別に 5~6 回の解説の時間を設け学生の知識の定着を図った。</p> <p>4 年後期には国家試験に対応する 14 科目について基礎的知識を問う「到達度試験」及び校内模擬試験（5 回）を実施し、試験結果を教員が共有するとともに、学生には面談して結果を伝達し、学習計画作成及び学習方法についての支援を行った。</p> <p>また、今年度は成績不振の学生が多かったことから、12 月から 1 月に週 1 回、苦手科目の試験と自己で解説作成を行わせた。これにより成績が上昇した学生が多かった。</p> <p>しかし、今年度は国家試験において 2 名が不合格であったが、いずれも体調不良により 4 年次後半の集中補習講座等への参加ができなかった学生である。次年度は、manaba を活用した学生の自主的な学習活動をさらに推進する。</p>
4	事業名 就職支援の推進
	進捗状況 ① 集団・個別指導及び就職セミナーの実施（目標 100%⇒実施率 100%） ② 教員による面接指導の実施（目標 100%⇒実施率 100%）
	<p><b>成 果</b>            (自己点検評価、課題、改善策等)</p> <p>就職希望学生の就職率は 100% であった。専門職をめざす学生への教員による就職試験対策・個別指導は 150 件／年実施された。公務員や食品会社への面接対策は、教員の専門性を活かした対応により成果を上げている。</p> <p>就職・キャリアセンターと連携し、3 年生に対してキャリア講演会を 5 月に、就職活動準備講座を 12 月～1 月にかけて 5 回実施し、例年以上に充実した内容となった。</p> <p>また、就職・キャリアセンターが主催する就職ガイダンス、就職セミナー、公務員講座等への参加を促した。</p> <p>次年度も就職・キャリアセンターと連携を強化しながら、本学部の専門性及び管理栄養士資格を生かせるように就職の支援を行っていく。</p>
5	事業名 山梨県等との健康と栄養に関わる連携体制の強化と活動の推進
	進捗状況 ① 臨地実習Ⅰ検討会、県民健康公開講座における連携強化と「やまなしの食」への講師派遣（目標 100%⇒実施率 100%） ② 県主催健やか山梨 21 推進大会への学生、教員の参加（目標 100%⇒実施率 100%） ③ 県内農産物の機能性、加工食品開発等に関わる研究の実施（目標 100%⇒実施率 100%）

	<p>成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕</p> <p>山梨県の各部局と連携し、「やまなしの食」、「地域の食と栄養活動実習Ⅰ（地域農畜産物活用）」「地域の食と栄養活動実習Ⅱ（地域食育活動）」及び「地域の食と健康総合演習」を開講し、地域貢献活動を通して、学生の実践力の向上に成果を上げている。</p> <p>情報発信として、平成26年度に実施した県民栄養調査結果をもとに研究成果を山梨県栄養士会及び関連学会において報告を行った。</p> <p>また、食品の有効活用に関わる研究、農業や食産業従事者と山梨県との产学研官連携による研究成果を各種学会において報告した。</p> <p>さらに、「地域の食と栄養活動実習Ⅰ（地域農畜産物活用）」で作成した報告書と「県民健康公開講座」のテキスト（授業科目「地域の食と栄養活動実習Ⅱ（地域食育活動）」にて作成）は、大学のHPに掲載し、一般県民や市町村栄養士が行う栄養教育や食生活改善推進員の活動に活用されている。</p>
--	--

## [大学 国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科]

1	事業名	入学者確保に向けた取組みの強化
	進捗状況	新たなりクルーティングに着手したが、その成果が現れるには至っていない。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	海外からの留学生を対象としたリクルーティングを効果的に推進するため、海外エージェントとの契約締結を開始したが、まだ具体的な成果が出るには至っていない。 専属のチームを設けるなど、当該業務に特化した取り組みが必要であるが、2019年度より入試センターに業務が移管されることになった。
2	事業名	完成年度における教育課程の着実な執行
	進捗状況	初めての卒業判定に伴う作業を着実に遂行することができた。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	iCLA事務室と新学部執行部との連携により、「卒業研究」の指導・提出、その後の卒業判定まで完遂することができた。 今後は、年に2回生じる定例の業務となることから、より体系的な業務遂行が可能となるようにプロセスを整備する予定である。
3	事業名	地域貢献活動実施体制の構築に向けた計画
	進捗状況	まったく未着手となっている。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	新カリキュラムの策定と新教員の採用の業務に相当の業務時間を割かなければならず、地域貢献活動についてはまったく未着手となってしまった。学部の教員の多くが日本語でのコミュニケーションが取れず、iCLA事務室も人員不足のため、地域貢献活動に着手する人的基盤が整っていないと言わざるを得ない。
4	事業名	教育効果測定の導入
	進捗状況	初めて効果測定テストを実施したが、その結果の活用方法を検討中である。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	教育効果を検証するための外部テストを実施したが、そこで得られた結果を今後の教育活動で活用していくための具体的な検討が必要となっている。 実施した外部テストについては、海外でも学部内でも賛否両論があり、活用方法や今後のテスト選定を含めて詳細な検討が必要な段階である。
5	事業名	学部運営業務の体系化に向けた検討
	進捗状況	実効性の伴った業務体制を構築する上では道半ばである。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	これまでカリキュラムの変更が認められておらず、卒業に伴う業務対応もなかったが、今後はこれらの業務が追加されたことで、iCLA事務室のかかえる業務量が質的・量的に拡大したといえる。 新たな挑戦を始めるためにも、定例業務については、安定的・効率的な遂行ができるよう業務体制を整えたい。

## [大学 スポーツ科学部スポーツ科学科]

	事業名	学部運営の安定化推進
	進捗状況	<p>2016 年度開設のスポーツ科学部においては、文部科学省に提出した学部設置認可申請書の内容（設置計画）に則って、受け入れ学生の教育活動を蕭々と推進するとともに、2 年後の完成年度に向けて、授業内容の確認、年次計画で購入を予定している備品等の確実な整備による学習・研究環境の担保を図った。</p> <p>さらに、学部内では、委員会活動の活発化と学部運営に必要な申合せ等の諸制度を整備し、安定した学部運営を目指す。</p>
1	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>施設課、財務課等大学本部関係機関の協力を頂きながら、ほぼ設置計画に沿った備品等の整備が進行した。</p> <p>一部予想を上回る受講学生希望者数の実技科目もあり、受講学生の割り振りに苦慮したが、AI の利用により平成 29 年度よりもスムーズな対応ができた。</p> <p>2020 年度の学部完成年度以後を見据え、教務委員会を中心に、現カリキュラムの問題点の掘り起こしに着手することを目指したが、大学院設置に関する検討を優先したため、カリキュラム改革検討 WG の設置にとどまった。</p> <p>YGU スポーツ科学部の学外におけるプレゼンスを確固たるものにするためには、大学院修士課程の設置は必須であるので、文部科学省への設置申請書の提出に向けて準備し、文部科学省への相談までこぎつけたが、学園全体の学生定員管理の制限から提出を断念し、延期することになった。しかし、作成した設置申請書は学長に報告し預かりとなった。</p> <p>「キャンパスサポートシステム」を有効活用することによって、学生一人一人への指導の目を行き届かせ、ISS 学生の修学状況を把握することを目指して、機会ある毎に教員の何らかの書き込みを促した。</p>
2	事業名	安定的志願者確保に向けた包括的な入試・広報活動の推進
	進捗状況	<p>PDCA サイクルに則り 2018（平成 30）年度入試の実績を評価し、2019（平成 31）年度入試に向けて必要な対策を講じる。</p> <p>情報戦略を駆使した包括的な広報と入試要項の改良によって、より山梨学院大学の魅力を鮮明にして、学部の専門性に興味・関心のある高校生を増やし、ひいては受験行動に導く。</p>
2	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>スポーツ科学部公式 twitter 等により、アップツウディトな情報を週 1 回以上発信し、受験生により身近な ISS を目指した。これまでに 400 回以上のツイートを発信し、800 人以上にフォローされている。</p> <p>5 会場以上の学部説明会や模擬授業等への参加回数の増を目指した。その結果、山梨県、長野県、静岡県の高校や東京での進学相談会 10 会場に参加した。</p> <p>オープンキャンパス時でも、ISS の諸活動を短くまとめた PV を作成し、来場者の関心を高めた。</p> <p>ISS 各教員が積極的に講習会や研究誌等に露出することによって、ISS の認知度を高める。トータルで 10 件以上の露出を目指したが、それを大幅に上回る露出があった。</p> <p>入試では、一般入試に関わり高得点合格者に積極的に入学を期するために、学部長名でウエルカムレターを送付した。</p>
3	事業名	各種スポーツ関連資格取得対策の支援
	進捗状況	<p>スポーツ科学部においては教員免許やスポーツ指導者（日本体育協会）、健康運動指導士（健康・体力づくり事業団）等の資格を取得することが可能であり、1 年次より計画的な関連授業科目の履修を支援する。</p> <p>特に教員免許状の取得と教員採用試験対策に関しては、教職担当教員を配置して重点的な対策を講じ、学部卒業時の教員採用試験突破を目指す。</p>
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>主要なスポーツ関連資格取得に関する養成校申請手続きを完了した。特に、本年度 JPSU スポーツトレーナー資格に関する申請を完遂し、養成校の認定を受けた。</p> <p>ISS として関連教員を中心に教員採用試験対策講座を開始した。</p> <p>2020 年度以降のインターンシップの具体的実施に向けての準備を開始し、イベント関連企業、福祉関連企業、等と協議し、必要な情報収集を行った。</p>

	事業名	カレッジスポーツの振興と YGU マインドの構築の推進
4	進捗状況	<p>全学的にカレッジスポーツを統括するカレッジスポーツセンターの機能とスポーツ科学部の人的・施設的シーズをスポーツ活動の強化に生かし、山梨学院大学マインドとしての全体的なブランド力アップとアイデンティティーの構築に貢献する。</p> <p>同時に、 YGU スポーツの価値向上の諸方策の検討を行う。</p>
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>学生主体の ISS 広報部を発足させて、 ISS や YGU スポーツに関して週末を中心として情報発信を開始する。試合シーズンでは週 1 回以上の発信を目指した。その結果、ツイート数 450 件、フォロワー数 200 件を記録したが、引く続きその認知度を高めることが必要である。</p> <p>YGU マインドとして「振る舞い」や「学び」の仕方を身に付けた学生を養成すべく、 ISS 全教職員を挙げて日々の学生への対応を徹底した。学生と教員ともに各学期の始めと終りにそれぞれ確認テストを実施し達成度を確認した。各項目において実施 90% を目指したが、ほぼ 80% の達成率であり、引き続き活動を徹底する必要がある。</p> <p>国内もしくは国際交流協定校を増やすことによって、国際的にも YGU ・ ISS のブランド力を高める。 2018 年度内に国内及びタイの大学との協定を目指した。国内では大東文化大学と連携協定を締結することができた。国外では、カセサート大学スポーツ科学部、教育学部（体育学科）、チュラロンコン大学スポーツ科学部を表敬訪問し、 2019 年度に交流協定を締結することとなった。</p> <p>国際交流協定校であるリオン第 1 大学から研究者 2 名が来校し、共同研究及び学生交流の打ち合わせを行った。 2019 ラグビーワールドカップに際して 2019 年度 2 名の短期留学生を受け入れる予定である。</p> <p>若年齢層（特に女子大学生層）に人気のあるブランド企業、株式会社サマンサタバサジャパンリミテッドと 1 月 9 日に包括的連携協定を締結した。</p> <p>PBL による女性アスリート向けの商品開発に参画し、 2019 年 5 月には YGU をイメージした新製品が完成する予定である。また、 ISS では 2019 年度新入生全員のジャージ左袖に連携協定に関わり作成されたロゴを掲載する予定である。本件に関しては、株式会社サマンサタバサジャパンリミテッドサイドからもプレスリリースがあった。</p>
5	事業名	地域連携の強化推進
	進捗状況	<p>甲府市（包括協定）、酒折地区（清掃活動）、身延町（野外実習）、山梨県（オリ・パラ合宿誘致協力）、その他（日刊スポーツ主催富士山マラソン役員補助、その他各種スポーツイベントへの参画）等との連携事業を積極的に推進することによって、学外でのフィールドワークの場を積極的に設定し、スポーツ科学部の地域における認知度の向上を図ると共に、学外者との交流等の諸経験を通じて学部生の総合的な人間力を育成する。</p> <p>加えて、甲府市を中心とした地域に優しく、地域に開かれ、地域のコミュニティーセンター機能をも有する大学の在り方を模索する。</p>
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>ISS として、これまで以上に積極的に地域連携事業に参加することを目指した。その結果、年 2 回の酒折地区清掃活動に学部として参加し、権口市長にも表敬した。</p> <p>年 2 回以上スポーツイベントに参画し、その際には ISS 幹事を提示する等、 ISS として露出できるよう工夫した。富士山マラソン、甲府市健康ポイント事業等への参画の際に ISS 幹事を提示した。甲府市との包括協定に関わる事業に協力した。健康ポイント事業では関連教員を中心に市民 400 名の体力測定等を実施した。</p> <p>また日本版 NCAA に関連して、カレッジスポーツセンターとの連携の中では、ジャージ等での甲府市の露出を実現した。特に ISS では、 2019 年度新入生全員のジャージに甲府市のロゴを掲載する予定である。</p> <p>野外実習等で関わる山梨県内の市町村、特に身延町との連携を模索し、 2019 年 2 月 16 日に関係部署の町関係者との打合せ会議を持った。具体的な事業の詳細は 2019 年度に実施することとした。</p> <p>2020 東京五輪における組織委員会スポーツボランティア募集に際し、 ISS でも全学生に広報したり参画を促す等積極的に協力した。</p>

### 3 短期大学における教育・研究活動等に関する事項

	事業名	AP 採択事業「卒業時における質保証の取組の強化」PROPERTIES の推進
	進捗状況	3 年目を迎え、計画通り進んでいる。前年度に引き続き、全教職員協働のもと学修支援システム PROPERTIES e-learning の提供、専門的知識外部試験、ボランティア・パスポート活用、卒業生追跡調査を実施するとともに、今年度は専門的実践力外部試験、学修成果レーダーチャートの全学的導入も完了した。
1	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>○主な数値目標→実績</p> <p>「学生の授業外学修時間」10 時間／週 → 10.13 時間／週</p> <p>「事業計画に参画する教員の割合」100% → 100%</p> <p>「GPA 短期大学平均」2.75 → 2.66</p> <p>「進路決定率」98% → 98.7%</p> <p>○課題、改善策</p> <p>事業最終年度である 2019 年度は「卒業時における質保証」について個々の学生レベルでの検証と効果測定を実施したい。</p>
2	事業名	地域連携・地域貢献の充実
	進捗状況	各種協定に基づいた連携事業の実施、学外助言評価委員会との連携による教育改善、履修証明プログラムの拡充、地域連携研究センター事業としての講座開催等に取り組んだ。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>○主な数値目標→実績</p> <p>「山梨県との連携事業」2 事業／年 → 2 事業／年</p> <p>「山梨県社会福祉協議会との連携事業（学生ボランティア参加率）」100% → 100%</p> <p>「甲府市との連携事業」1 事業／年 → 1 事業／年</p> <p>「キープ協会との連携事業」1 事業／年 → 1 事業／年</p> <p>「山梨中央銀行との連携事業」1 事業／年 → 1 事業／年</p> <p>「学外助言評価委員会の開催」2 回／年 → 2 回／年</p> <p>「履修証明プログラム履修者」2 名／年 → 1 名／年</p> <p>この他、地域連携研究センター事業として、地方公共団体等の要請に応じた本学教員の派遣、地域の高齢者を対象とする健康づくり事業（16 人参加）、社会的養護関係者等を対象とした講座の開催（80 人参加）や研究会（年間 5 回）の実施、前年度に実施した山梨県内の児童養護施設退所者に関する調査の結果に基づく山梨県福祉保健部への提言等、地域課題に関する研究・実践を推進し、地域連携・貢献の充実を図った。</p> <p>○課題、改善策</p> <p>数値目標を達成できなかった「履修証明プログラム」については、募集方法、時期等の改善を図る。地域連携研究センター独自事業を発展継続実施する。</p>
3	事業名	高大連携事業の積極的展開
	進捗状況	山梨学院高校、食に関する専門学科を有する県立笛吹高校、農林高校との連携事業に引き続き積極的に取り組んだ。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>○主な数値目標→実績</p> <p>「山梨学院高校 1, 2 年対象高大連携プログラムの実施」14 回／年 → 14 回／年</p> <p>「山梨学院高校 3 年生授業の実施」2 授業／年 → 2 授業／年</p> <p>「笛吹高校との連携活動」3 回／年 → 3 回／年</p> <p>「農林高校との連携活動」3 回／年 → 3 回／年</p> <p>「新規連携活動」2 回／年 → 0 回／年</p> <p>高校生へのアンケートから、「大学・短大での勉強が楽しみになった」などの効果を確認できた。上に示した以外にも、高校教員に短大について紹介する会の開催、高校生が参加できる「保育フェア」の開催（県内保育所等と合同開催）など、食・教育・福祉等の専門分野の魅力や社会的意義について高校生の理解を深められるよう努めた。</p> <p>○課題・改善策</p> <p>数値目標を達成できなかった「新規連携活動」については、今後も引き続き、実施を目指して、連携高校の検討、高校との協議を進める。</p>

	事業名	戦略的學生募集活動の推進
4	進捗状況	Face to Face を重視した進学説明会や県内外高校訪問、魅力ある情報発信、専門分野が共通する高校との複数回にわたる連携活動、中学生対象の講座開催など、學生募集活動を積極的に展開した。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>○主な数値目標→実績</p> <p>「平成31年度入学定員充足率（専攻科含む）」100% → 93%</p> <p>「進学相談会」80回／年 → 107回／年</p> <p>「高校訪問」250回／年 → 264回／年</p> <p>「中学生対象オープンキャンパス」2回／年 → 1回／年</p> <p>「IR学生募集関連調査」2調査／年 → 1調査／年</p> <p>「県内高校教員対象説明会」1回／年 → 1回／年</p> <p>「資格・検定の新規導入」2資格・検定／年 → 1資格・検定／年</p> <p>○課題・改善策</p> <p>県内出身學生の割合が高いことから、県内18歳人口減少の影響を強く受けている。今後は、定員の適正規模の検討、社会人・留学生の受け入れに向けた取組の強化が必要である。</p>

#### 4 学園での学生支援、教育サービス、教育活動等に関する事項

##### [総合図書館]

	事業名	教育支援体制の充実
1	進捗状況	継続して実施する必要がある。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>昨年度に引き続き学習用図書、基本図書、参考図書を重点的に整備した。今後とも費用対効果を検証し、より洗練された選書に努める必要がある。</p> <p>組織再編により本年度から総合図書館に位置づけられた情報プラザ（Seeds）では、授業等への支援参加に努めた。引き続き授業と連携した情報リテラシー教育を展開し、学習支援・教育研究支援機能の更なる充実を図る必要がある。</p>

	事業名	研究支援体制の充実
2	進捗状況	継続して実施する必要がある。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>個人ポータル（マイライブラリ）の最適化に向けた取り組みとして、新たに電子コンテンツ「日経BP記事検索サービス」を追加し、ネット環境を利用した非来館型サービスの利用促進を図った。</p> <p>引き続き図書館システムのポータル機能の学内周知に努め、非来館型サービスの充実を図る必要がある。</p>

	事業名	地域文化への貢献
3	進捗状況	継続して実施する必要がある。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>昨年度に引き続き図書館資料及び施設を一般に公開し、地域住民の生涯学習活動等の支援サービスを行った。2018年度の一般登録者数は71名であった。</p> <p>今後とも利用者サービスの向上を図り、地域文化に貢献していく必要がある。</p>

	事業名	国際化の対応
4	進捗状況	継続して実施する必要がある。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>iCLAと連携し、授業に必要な洋書を整備するとともに、外国人利用者に対応するべく図書館のホームページやOPACに英語サイトを設けるなど、図書館利用の新たな促進・工夫を行った。</p> <p>留学生受入れ推進の観点からも、留学生が利用し易い環境の整備に継続して取り組む必要がある。</p>

	事業名	経費のスリム化
5	進捗状況	継続して実施する必要がある。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>電子ジャーナルやデータベースに要する経費が年々上昇を続け、従来型資料の収集に係る経費を圧迫し続けている。こうした現状に対応するため、今後は定期的に資料やデータベースの利用状況を精査し、低利用誌の中止や契約の解除等についても検討していく必要がある。</p>

## [学生センター]

1	事業名	学生厚生補導の充実と強化
	進捗状況	法律の改正なども含めた環境の変化に対応できていない部分がある。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	ガイダンス時に法令やモラル・マナーの遵守、トラブル防止等について資料 成果 を配布し徹底するとともに、教員を通じ授業等での啓蒙活動を行うことで、学生の厚生補導の充実と強化を図ったが、様々な法律の改正なども含めた環境の変化に対応がやり切れていない。正にPDCAの作業が実施されていない状況がある。
2	事業名	課外活動及びイベントの活性化
	進捗状況	各種イベントの次への足掛かりとなる助走の年となった。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	課外活動への参加者が減少する中、新しい団体が設立したり、休止中の団体 が活動を再開したりするなど、少しづつ改善されている部分もある。 新入生歓迎イベントには、新たにタレントを招きイベントを盛り上げる工夫 をした。アルテア七夕まつりや樹徳祭においても新たな取組を実施した。
3	事業名	修学面談の実施(学習支援)及び学生支援の充実
	進捗状況	平成30年度退学者数 99名(内除籍9名) 2.7%
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	成績不振者(半期10単位以下の学生、留年経験者等)を対象に修学面談を実施し、前期面談者中 54% が半期16単位以上を修得(または前期卒業)するなど成績向上を図っている。該当学生は結果として退学を回避でき平成30年度退学者数を100名以下とした目標は辛うじて全うしたがこれを来季への足掛かりとしてとらえたい。
4	事業名	学生の健全なサポート
	進捗状況	支援の実施に具体的な道筋を立てることができた。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	保健管理室は、入学時に既往症や障害等について、また学生相談室においては精神的な問題が原因で身体的状態を呈する学生も少なくないため個別で聞き取りを行い、配慮が必要な学生に対しては個人情報の取り扱いに留意しながら、学生総合支援委員会から教學委員会を通じて各学科教員へ実施依頼する道筋を立てた。
5	事業名	学生寮運営
	進捗状況	健全な学生寮運営のスタートラインに立った
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	学生寮管理運営について外部業者への委託を進める中で、関係者及び関係所属と連携をとり、委託契約を結ぶに至ったがスタートラインに立ったに過ぎない。 管理処理・管理処理・会計処理についてもまさに「位置について」である。

## [入試センター]

1	事業名	ターゲットを絞った入試広報
	進捗状況	2019年度入試に関して完了
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	・志願者数2,057名(対前年+21.4%)、入学者数1,089名(同+10.8%)を確保した。
2	事業名	入試WEBサイト更新
	進捗状況	完了
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	・スマートフォン対応を完了 ・WEB出願との連携を完了

	事業名	入試要項の刷新
3	進捗状況	完了
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	・3分冊180ページの要項を、1冊50ページに簡素化 ・プロモーション要素を付加して志願者増に貢献
	事業名	WEB出願システムの刷新
4	進捗状況	完了
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	・志願者の個人情報を事前入力することで、出願時の手続きを簡素化 ・受験票廃止・写真提出廃止等、入試オペレーションを改革し、手続きを極小化
	事業名	志願者増を目的とした入試制度・日程の調整
5	進捗状況	完了
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	・一般入試Ⅱ期を新設し、志願者58名を新規獲得 ・スカラシップ入試制度を変更し、志願者143名（対前年3.7倍）を獲得

### [就職・キャリアセンター]

	事業名	低学年からのキャリア形成支援の体系化とカウンセリングの強化
1	進捗状況	低学年からのキャリア形成支援の体系化：未達 カウンセリングの強化：カウンセリングの質の向上を狙ったグループ相談と1on1カウンセリングのサポート体制へ移行した。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	LEDセンターによりドラフトされた「低年次におけるキャリア教育」については就職・キャリア委員会と共に共有された。 就職CCとしては、低年次向けJ-Pro.basic、就活期を対象としたJ-Pro.advanceの2本柱により、各30コマによる体系がある。課題は学生の参加率である。 学生が求める相談事項は多様であるが、就活準備期及び就活期のニーズは“エントリーシート(ES)の書き方”や漠然とした“就活について”が大半を占め、1on1カウンセリングによる学生支援は、時間・質と共に過剰なサービスであるがゆえ、少人数（グループ）によるセミナーを5回、延べ1,400名以上に対して実施した。就活準備の初期支援を効率化したことにより、学生の個性、価値観、希望に応じた1on1カウンセリングの質が向上したと考えられる。2019年度はこの正課を係数として把握可能な指標の設計を行う。
2	事業名	iCLAとスポーツ科学部の進路支援体制整備
	進捗状況	両学部における“体制”整備は未達
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	✓ スポーツ科学部3年生向け夏休み前キャリアガイダンスの実施(7月) ✓ スポーツ科学部3年生全員面談実施(183名、10-11月) ✓ スポーツ科学部2年生SPI模擬試験②(12月)
3	事業名	アスリート系学生の進路支援体制の整備と充実
	進捗状況	アスリート系学生の進路支援体制の整備：未着 アスリート系学生の進路支援の充実：スポーツアスリート積極採用企業の案内強化
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	✓ 強化クラブ系の学生進路支援(G相談会5回実施) ✓ スポーツ科学部のスポーツ関連企業への就職希望者支援

	事業名	留学生の進路支援体制整備
	進捗状況	未整備
4	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「やまなしで働く魅力」若者座談会（大学コンソーシアムやまなしの委託事業）で留学生対象の回の実施。学生周知は国際交流センターとの連携。※元留学生の卒業生による登壇。(11月)</li> <li>・進路調査における留学生で不明者、更新なき者についての調査。国際交流センターと教務課との連携(2月)</li> <li>・留学生ガイダンス(4月)</li> </ul>
5	事業名	webシステム活用と学生への情報提供サービスの充実
	進捗状況	学生向け情報提供サービスの拡充した
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	就職・キャリアセンターホームページ(HP)のタイムリーな更新に加え、YGU-HP、manabaなど学生が必要とする情報サイトへリンクされた就活支援スマートフォン用ポータルサイトを拡充した。 学生によるサイトの活用、就職活動の早期化が課題。

### [情報基盤センター]

	事業名	コンピューター実習室の更新
1	進捗状況	2018年度で計画した情報実習環境の更新は完了した。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	学生が利用するパソコンを更新することで、処理速度が向上し、最新のソフトウェアを利用できるようになった。学生は、最新の操作を習得することができるようになり、教員は新しい機能を利用して授業を進めることができるようにになった。
2	事業名	教育用無線LANの増強
	進捗状況	今年度計画した無線LANの増強は完了した。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	今年度は、16号館講義室(3部屋)、45号館講義室とサザンタワー専攻科を対象にして無線LANの増強を行った。 多くの端末が接続すると処理が遅くなっていたところが解消された。また、教育支援サービス、manabaの通信も速度が向上した。
3	事業名	教育・事務サーバーの更新
	進捗状況	設置は終了したが、設定から稼働までの作業は次年度となった。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	OSのサポート終了に伴い教育と事務のサーバー導入を行った。一部サーバーの稼働までは終了しているが、利用が少なくなる年度末の入れ替え作業であるとの構築数の関係のため、全てが完了するのではなく次年度となった。
4	事業名	学生情報データベースの見直し
	進捗状況	事務システムの見直しが予定されているため計画は保留した。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	現状のデータベースを解析するための環境を準備する手順について、その環境作成と検証を行った。 しかし、事務システムを対象にして見直しが予定されているため、学生情報データベースについての見直しは一旦保留とした。
5	事業名	Office 365の教育および事務利用への検証
	進捗状況	メールについて、事務は完了、教育は年度毎に検証と移行を進めている。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	Office 365のメールアプリについては、一通りの検証が終わり、事務は移行作業が完了した。教育では、検証と移行を年次進行で進めている。 その他のアプリについて、現状では要望のあったものを検証して、導入の可否を判断している状況である。

6	事業名	情報環境に対するサポートの強化
	進捗状況	収集した情報を提供する環境や手順作りが必要である。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	インターネットやベンダーからの情報収集やソリューションセミナーへ参加しての情報収集を行っている。得られたものをもとにして情報提供やサポートは行っているが、教職員へ適切なタイミングでの提供をスムーズに行うことは難しい。 今後は、提供する環境や手順あるいは方法を構築する必要がある。
7	事業名	事務用パソコンのOS更新
	進捗状況	OS、Windows 7からWindows 10へのバージョンアップは完了した。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	事務用パソコンは、Windows 7のサポート終了に伴い、OSをWindows 10へバージョンアップした。バージョンアップにより、マイクロソフトよりセキュリティ上の修正プログラムが適宜提供され、安定した環境でシステムの運用を進めることができる。なお、Windows 10は、2025年にサポートが終了する。
8	事業名	情報セキュリティ対策の検討
	進捗状況	ファイアウォール、ファームウェアの更新とポリシーの見直しを行った。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	ファイアウォールのファームウェアを最新バージョンへアップデートした。アップデートすることで、新たに追加されたセキュリティ機能が利用できるようになった。 また、ポリシーの見直しを行い、不要なポリシーを削除することで、設定領域の見通しが良くなり、エラー設定の排除が期待できる。
9	事業名	データバックアップの検証と効率化
	進捗状況	バックアップの正常稼働を確認した。ツールの導入を目指して検討に入った。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	現在設定されているバックアップについて、全数調査を行い、全て正常に稼働していることを確認した。 現状のバックアップは、正常終了や異常終了についてメッセージを出さないため、機能的に作られているツールの調査を始めた。

### [生涯学習センター]

1	事業名	「音楽ワークショップ」および「日本文化ワークショップ」の拡充
	進捗状況	9/26(水)・10/10(水)・10/24(水)・11/8(木)・11/30(金)・12/1(土)の6回シリーズで能(日本文化)のWSを実施。音楽のWSは実施せず。受講料として、65,000円の収入。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	昨年度よりも更に実践的に能について学ぶプログラムとして企画した「日本文化ワークショップ」は、「猩々」を課題として行われ、佐藤寛泰先生の指導のもと、最初は覚束なかった参加者がしっかりと技能を身に着け、最後の発表会では堂々とした仕舞と謡が披露され、この間の展開はNNSの番組でも詳しく紹介された。3~4名ほどの応募しか来ないので心配していたが、14名の方が参加し、様々な年齢・立場の市民学習者が協力して学び合う場として展開。 2019年度は、より多くの見学者が発表会に来ていただけるようにしたい。 音楽のWSについては、企画の中心となる教員の事情により、休止状態。
2	事業名	ワイン関連事業の戦略的拡充
	進捗状況	7/26(木)に入門編「ワインと料理の相性」を実施、38人が参加。9/28、10/19、11/16、12/14(いずれも金曜)の4回シリーズで本編「Back to the Basic：立ち止まり日本ワインを掘り下げる」を実施、延べ164人が参加。 2/10(日)に岡谷で「ワインと料理の相性」を実施し、20人が参加。3/2(土)に特別編「日本ワインの新たな試み(その3)」を実施、52人が参加。参加費として、総計738,000円の収入。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	いずれも好評・盛会のうちに終わり、今後も更に内容・方法を充実させ、ユニークな講座として展開したい。また、講座には、一般のワイン愛好家だけでなく、ワイン醸造関係者、葡萄栽培農家、自治体職員、料理関係者、メディア関係者などが集い、産業基盤、流通、政策等々についての率直な意見交換の場となることも多々あり、このようなインキュベーション機能を特に大切にしながら、一層の拡充を図りたい。

3	事業名	「山梨学院教職員自主企画講座支援フレーム」(仮称)の創設
	進捗状況	研究員会議で議論したが、結論は出ず。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	2018年度中に基本的な枠組みを創出する予定であったが、着手できなかった。引き続き、可能性を模索する。
4	事業名	語学関連プログラム
	進捗状況	11/14(水)、11/28(水)の2回シリーズで "The Influence of Cultural Identity, Social Class, and Gender Roles in Intercultural Communication" をテーマとする EDW(英語でワークショップ)を実施、延べ16人が参加。 12/8(土)に予定していた「英語スピーチコンテスト」は参加者少数につき中止とし、代替プログラムとして "Public Speaking Training : Speak Up for Success!" をテーマとする EDW 特別編を実施、14人が参加。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	有意義でユニークなプログラムとして企画した「スピーチコンテスト」への参加者が思うように得られず、中止となった。その中止決定の過程に関して、申込者の方々への連絡やフォローが不十分だった面があり、今後は参加者少数の場合の対応策や代替措置をもっと具体的に設定しながら企画を進めることとしたい。 加えて、EDW もスピーチコンテストも、語学担当教員の協力を仰ぎ、英語関連の授業とのより具体的な連携の在り方を探っていきたい。
5	事業名	「健康・スポーツ」ニーズに対応したユニークなプログラムの企画・運営
	進捗状況	日本山岳会山梨支部との共同主催による「やまなし登山基礎講座」を9/25~10/30の8回シリーズで開催し、のべ265人が参加。 11/21(水)に、「レスリングの魅力と夢」をテーマとする理事長賞受賞記念講演会を実施、75人が参加。 その他、短期大学地域連携研究センター主催の「シニア世代の健康づくり」、川上琴美研究室主催の「第3回教育ダンス発表会」に協力。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	カレッジスポーツセンター、スポーツ科学部、管理栄養学科などとの共同企画が出来ていないので、その可能性を探る。
6	事業名	「酒折連歌講座」の再構築
	進捗状況	従来の「酒折連歌講座」と「山梨学院文学講座」とを統合して「やまなし文芸講座」の事業枠を設定し、6/21(木)と7/6(金)の2回シリーズで「酒折連歌編」を実施、延べ143人が参加、10/12、10/26、11/9(いずれも金曜)の3回シリーズで「作家論編」を実施、延べ68人が参加。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	「酒折連歌編」は人気が高いので、何とか3回シリーズで開催できないか、検討する。
7	事業名	「やまなし学研究」の運営
	進捗状況	4/25(水)~7/11(水)の7回シリーズで前期コース「甲斐の古道を訪ねて」を実施、延べ488人が参加。9/19(水)~12/12(水)の7回シリーズで後期コース「山梨の地場産業」を実施、延べ282人が参加。「総合基礎教育科目」として学生5名が履修。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	基本テーマに沿ってじっくり深く学べる場となり、好評であった。学生の履修者は、昨年度と同様一ヶタに留まつたので、新年度は更に周知に力を入れたい。 なお、これまで、講義形式が中心だったが、来年度の後期についてはワークショップ型の方法で実施することを検討。
8	事業名	地域福祉に関する研究・学習支援・社会貢献
	進捗状況	7/3(火)、9/4(火)、10/17(水)、11/6(火)、2/5(火)に短期大学地域連携研究センターとの共催により「山梨社会的養護研究会」の会合を、10/17(水)には「新たな里親養育の在り方」をテーマとする社会的養護フォーラムを実施。フォーラムには80人が参加。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	引き続き、短期大学地域連携研究センターと緊密に協力し、「山梨社会的養護研究会」および「社会的養護フォーラム」の円滑な運営に努める。

9	事業名	「地域課題研究支援プラットフォーム」(仮称)の検討
	進捗状況	特に進んでいない。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	2018-2020 年度中期計画において「地域課題研究支援プラットフォーム」(山梨県の地域課題に関して研究する教員または研究チームの活動を当センターとして支援する仕組みの検討)が項目として掲げられてあったが、「地域課題」に特化する有用性が必ずしも期待できないこと、従来から「学術成果の発表と研究の支援・活性化」は取り組まれており、このことが同計画にも項目として位置付けられていることから、「計画」としては、これら 2 項目を統合して業務を進めることとしたい。
10	事業名	「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」(「COC+」)の支援
	進捗状況	センター事務室内で勤務する「地域連携推進室」担当者の業務を、適宜、支援。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	引き続き、地域連携推進室、あるいは短期大学地域連携研究センターと協議して、必要な措置を講ずる。
11	事業名	学内各部署の支援（学内アウト・ソース機能）
	進捗状況	会議室や講義室の貸し出し、学内外からの問い合わせへの対応等々、随時対応。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	適宜、対応する。
12	事業名	各種講座・集会等の企画・実施
	進捗状況	既述のものも含め、32 件のプログラム(実施回数としては 80 回)に主催・共催・協力として携わった。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	引き続き、市民的能力の向上や新しい文化創造に資するテーマ、あるいは社会的要請や教育的・学術的意義の高いテーマなどを内容とするものに取り組むとともに、「孔子学院事業」に貢献・連携するプログラムも可能な限り行っていく。
13	事業名	出版
	進捗状況	『大学改革と生涯学習』(山梨学院生涯学習センター紀要)第 23 号、『やまなし学研究 2014 の記録』(山梨学院生涯学習センター研究報告第 33 輯)、および『山梨学院の生涯学習—2018 年度(平成 30 年度)一』を刊行。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	『紀要』の原稿締切と編集作業の開始時期を何とか早めたかったが、昨年度までと同様、年度末ギリギリの作業となった。『研究報告』は、依然として「やまなし学研究の記録」の編集・刊行が遅れ気味であるので、次年度は作業スピードを加速させたい。これらを少しでも改善したい。
14	事業名	社会教育主事養成課程の運営支援
	進捗状況	8 名の履修者の社会教育実習について連絡・調整するなど、課程の円滑な運営に貢献できた。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	社会教育実習がよりダイナミックな学びの機会となるよう、協力機関と協働して取り組む。
15	事業名	『生涯学習の時間』
	進捗状況	本放送を第一・第三の火曜日 21:00~21:30、再放送を同週木曜日 9:30~10:00 とし、23 回放送。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	順調に企画・制作できており、これを継続する。

### [国際交流センター]

1	事業名	留学生数増加に向けての留学生支援体制構築
	進捗状況	国際交流委員と連携して、学科ごとの履修説明・指導を徹底した。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	① 留学生への生活支援と危機管理（安全管理指導）を徹底した。 ② 4 月入学生だけでなく 9 月入学生に対しても委員と協働し入学オリエンテーション等を丁寧に実施することができた。 ③ 日本人学生と留学生の国際交流企画を年間通して多数実施したが、日本人学生の参加が少ないので改善したい。 ④ 在留資格申請等手続きに関する事務体制強化を目指したが、新たな在留資格認定取次者育成ができなかった。(課員全員取得を目指す)

2	事業名	留学生の日本語学習支援
	進捗状況	日本語補習プログラムの見直しが進んでいる
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>① 正規生留学生の日本語補習プログラムの運営見直しを担当教員と協議し常勤の日本語教員を増やすことを、2019年に向けて要望した。 (2019年3名増員となった)</p> <p>② 日本語能力向上を図るため、日本語能力試験と連動させた留学生の奨学金制度留学生と留学生募集政策と連動した授業料減免措置を関連部署と連携し施行することができた。</p>
3	事業名	提携校との学術交流
	進捗状況	海外の学校との、学術交流・学生交流・学生募集関連も含め提携校が増加している。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>① 学術交流等含め教職員の海外提携大学等への派遣については思うように進まなかった</p> <p>② 2018年度は、1名の客員研究員しか受け入れることができなかつた。従来、宿舎の関係で、同時期複数の客員研究員を受け入れることができなかつたが、次年度より舞鶴寮R館を数室確保できることとなつた。</p> <p>③ 海外からの臨時視察・交流依頼等への柔軟な受け入れ対応に努め、特に学生募集関連等で海外からの視察団に対して臨機応変に対応することができた。</p> <p>④ 新たに提携校である西安交通大学と孔子学院開設することとなつた。</p>
4	事業名	短期留学生受入及び日本人学生の海外研修
	進捗状況	9月に短期留学生22名の受け入れと、日本人学生の海外派遣を行つた
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>① 9月短期留学生の受入22名 (中国、ベトナム、インドネシア、タイ、ロシア)</p> <p>② iCLA以外の学部の日本人海外派遣は、「強化英語コース」20名、栄養管理海外研修11名、語学留学3名、中国へ短期研修1名を派遣できた。</p> <p>③ 海外留学派遣推進する上で重要な危機管理マニュアルの見直しを実施した。</p>
5	事業名	国際交流委員が企画・運営する国際交流事業への支援
	進捗状況	国際交流事業に対しての国際交流委員との関わりを強化している
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>① 国際交流委員及び各教員への積極的な交流企画提案を求め、5件の提案を企画案が実施できた。</p> <p>② 国際交流委員を通じて、低調である教員の学術相互交流に対して積極的な関わりをもつよう求め強化を図っていく。</p> <p>③ 国際交流センターとして100の国際交流企画に対して積極的な支援が実施できた。次年度以降は、ICCとの連携強化のため定期的な情報交換を行うことで、ICCの機能向上を図り、共同主催の企画を実施したい。</p>

### [カレッジスポーツセンター]

1	事業名	強化育成クラブ活動の充実
	進捗状況	2020 東京五輪に本学関係者を複数名輩出するために、今後3年間を特別強化期間とし、在学生から代表選手の排出を目指している。企業チームに所属する卒業生も日本代表候補選手が多く存在しており、母校の施設を練習拠点に在学生及び卒業生が切磋琢磨しあい練習しており相乗効果で競技力の向上をもたらしている。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>世界レスリング選手権2018でレスリング部2年生が金メダルを獲得し、19歳での世界選手権金メダル獲得は最年少記録を更新した。その他、アジア大会においてホッケー男女において日本代表選手として優勝し東京五輪出場枠を獲得に貢献した。卒業生8名、在学生男女2名合計で10名が代表選手として参加した。</p> <p>また、同大会の陸上競技マラソンにおいて卒業生が優勝した。柔道70kg級でも4年生女子選手が優勝をもたらした。</p> <p>水泳競技においても2名の卒業生が優勝し6種目で金メダルを獲得した。</p> <p>今回のアジア大会で金メダルを獲得した在学生と卒業生は2020 東京五輪での代表選手としての活躍が期待されている。本学関係者から15名以上の代表選手の排出を目指したい。</p> <p>卒業後競技を継続する者に母校で練習拠点を構えている者も多く互いに切磋琢磨しあい好環境の維持できている。</p>

	事業名	優秀選手の確保
	進捗状況	平成 30 年度 334 名のスポーツ強化指定学生を確保した。今後 15 競技で 300 名のスポーツ強化指定選手の確保を目指す。
2	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>ここ数年 300 名を超えるスポーツ強化指定学生が確保できている。指導者の日々の献身的な勧誘活動の成果である。</p> <p>また、各指導者と高校指導者との間でこれまで培ってきた信頼関係によるところが大である。学生募集活動（学園運営）において一定数のスポーツ学生を確保できており貢献できていると考える。</p> <p>しかし、人気競技においては、優秀選手確保において大学間競争が激化している。優秀選手の確保は本学も苦戦しており競技環境を整備するとともに勧誘体制の検討が必要である。今後、優秀選手の獲得を優位に進めるために競技を超えた勧誘体制を構築する必要である。</p> <p>コーチングと勧誘活動の両立は困難な点が多いため専門職員の配置を検討するなど、新たな勧誘体制の効率的な方法を見出す必要性である。これまで培った本学のスポーツブランドの更なる向上を図るには、高い競技力と将来性を持った高校生の確保が欠かせない。</p>
3	事業名	アスリート支援
	進捗状況	<p>スポーツ科学部との連携によるアスリート支援は、スポーツ科学部専門教員によるヒアリングが実施され、各競技の運営方針やトレーニングの実態を把握することに努めたうえで、助言を受けた。</p> <p>センター内の学習支援室（SSA）に専門職員を配置しアスリート対象に試験対策や課題に対する学習支援を実施してきた。また、成績に不安を抱えるアスリートのリストを作成し、学期の中間期に呼び出しを掛け、授業の理解度や出席状況など面談を通して把握し、その後も適宜必要に応じて学習支援を実施してきた。</p>
3	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>ISS 講義室において 15 競技 20 チームの強化育成クラブ監督から 1 年間をかけて隔週でクラブの運営方針や監督の指導理念・強化方針、その他クラブが抱える問題点等をヒアリングした後、質疑応答形式をとり強化クラブが抱える問題点や課題等を共有した。スポーツ科学部教員と、今後さらに連携を深めながら専門的立場から各競技指導者へアドバイス・支援を求めていく。</p> <p>アスリート学生を対象にした学習支援に専門職員を配置して実施してきた。これまで試験対策を中心に行なってきたが、新たに学期の中間期に学業に不安を抱える者や成績不良者のリストを作成し、専門職員が面談し修学状況や出席状況等を把握するとともに指導してきた。</p> <p>中間面談により成績不良者等を早期に把握しクラブの指導者と連携しながら指導している。</p>
4	事業名	事務組織の充実
	進捗状況	<p>事務組織・体制の継承期にあり将来を見据え事務体制を構築する必要がある。スポーツ庁大学スポーツ振興委託事業の推進役としてアドミニストレーターを配置したが不採用となつたため、再度採用に向け人選を行っていく。</p> <p>各クラブの指導理念・方針、目標等を管理シートに記載し自己評価してきた。年度末に理事長・学長に年度末総括会議で報告している。</p>
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	<p>昨年度から各クラブの運営方針や指導方針、中期計画、その他、指導理念、年度目標、地域貢献、ガバナンス、コンプライアンス等を把握し強化クラブのガバナンスに役立てている。また、目標管理シートをクラブ間で情報共有しクラブ運営の改革改善に役立てている。</p> <p>今後、競技スポーツ、地域貢献、グローバルな視野を持った人材をアドミニストレーターとして配置するとともに、事務職員の充実を図りセンター運営体制の充実を図る。</p>
5	事業名	スポーツの国際化
	進捗状況	<p>本センター強化育成クラブの重点項目である「強化」の成果として国際大会（世界選手権、アジア大会）等に多くのアスリートが参加し、国際大会等をとおして世界のトップアスリートと交流を図っている。</p> <p>その他ホッケー部、空手道など単独クラブで海外遠征実施し海外のアスリートとの交流を機に国際感覚の醸成を図っている。</p> <p>また、現在 5 競技のクラブで海外から留学生を受け入れ、チーム内で異文化の交流を深めながら競技力の向上に役立てている。</p>

	<p><b>成 果</b>            (自己点検評価、課題、改善策等)</p> <p>強化クラブ活動の基軸は「強化育成」であり、その目標の延長に国際競技力への貢献がある。レスリング部 2 年生の世界選手権での金メダルを始めアジア大会で在学生、卒業生を含め 6 名が金メダルを獲得した。国際大会を舞台に活躍したアスリートは、それまでに培った国際感覚や経験が競技を退いた後に大きく開花する可能性を秘めている。</p> <p>国際交流の推進を掲げているが、近年の不況により海外遠征を実施するクラブが減少している状況ではあるが、ホッケー部男子、空手道部は海外遠征を実施し交流を深めている。</p> <p>海外競技団体や個人を受入れ交流（外国遠征・留学生受入）を深めることにより、グローバルな学生の育成を推進したい。</p>
--	---

## 5 高等学校における教育・研究活動等に関する事項

1	事業名	高校イノベーションの検証と充実
	進捗状況	セメスター単位制高校の教育課程で学んだ生徒の難関大学の合格実績が飛躍的に向上した。また、教員研修、研究授業を実施し教育への質の向上に努めてきた。
	成 果 (自己点検評価、課題、改善策等)	本年度の国公立大学への合格数は東大 2 名、京大 2 名、山梨大学医学部 5 名以外に 24 名。私立大学及び短期大学には早稲田 8 名、慶應義塾 6 名、山梨学院 102 名、山梨学院短大 29 名以外に 243 名が合格した。また、授業改善に向けた教科研修を推進し、その結果 ICT 機器活用による効果的な学習が実践されている。
2	事業名	国際バカロレア (DP) の展開
	進捗状況	本校で初めてとなる世界統一修了試験を実施した。IB 系の一学期生 (9 名) が全員無事に大学に進学した。二期生も全員 3 年生に進級した。遠隔地、県外からの生徒のための指定寮も完備した。
	成 果 (自己点検評価、課題、改善策等)	一期生 9 名のうち 6 名が IB ディプロマを取得した。また大学進学率は 100% であり、全員現役合格。国際教養大学、上智大学などの国内大学にのべ 10 名、THE 世界大学ランキングで 300 位以内に入るオーストラリアのフリンダース大学をはじめ、海外大学にのべ 3 名の合格者を輩出することができた。 今後の課題は IB 希望生徒の数と質の安定的確保である。広報の充実と、柔軟な系列選択をするカリキュラムの編成を進めていく。また、都留文科大学との連携強化も図っていく。
3	事業名	教育設備・環境の充実に向けた取り組み
	進捗状況	中高グラウンド及びクラブ関係の施設に関して増設、改修が実施できた。
	成 果 (自己点検評価、課題、改善策等)	中高グラウンドの改修、野球部寮の増設、グラウンドの改修、サッカーグラウンド、テニスコートの人工芝の張替え及び改修は終えた。 第二体育館、IB 教育棟の建設に向けた取り組みを引き続き継続して行く。
4	事業名	クラブ活動の活性化
	進捗状況	各種クラブが全国大会に出場。運動部のみならず、文化部でも全国大会での活躍がみられた。
	成 果 (自己点検評価、課題、改善策等)	野球部においては夏春の甲子園出場、サッカー部のインターハイでの優勝、駅伝部は男女全国高校駅伝の出場を果たした。 インターハイには 8 クラブが出場を果たした。 山梨県高校総体においては女子が 4 年連続 11 回目の総合優勝を果たした。 文化部では、囲碁部、写真部が全国大会に出場した。
5	事業名	系列学校連携・高大連携の促進
	進捗状況	中学校との情報交換は順調に行われている。また、高大連携における単位互換制度も改善すべき点もあるが順調に運用されている。
	成 果 (自己点検評価、課題、改善策等)	中高連携において、特に特進コースでは各教科において中学校の授業進路や内容、個々の生徒についての情報交換を行い授業や生徒指導にいかしている。 高大連携により単位互換を大学・短大で実施した。今後、高大連携については、問題点を改善しながら生徒にとって有益な連携になるように進めていきたい。

## 6 中学校における教育・研究活動等に関する事項

1	事業名	教科センター方式に基づく専門的授業の推進
	進捗状況	研究部主導で校内研修を繰り返し、教科の専門性の深化を図った。また、教室配備の worksheet の問題の質を向上させ、生徒の学習意欲を高め、IB 型の探究型学習を促している。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	デジタル教材を活用するために全教室に設置されたインターラクティブプロジェクターは授業展開に非常に有効だった。板書の書写に費やす時間を最小限に抑え、生徒の思考を促す時間を創出した。 また、映像や画像を駆使したインターラクティブな授業を展開するうえで効果をあげた。成績上位層のみならず下位層の指導にも役立ち、結果として学力不振による不登校生徒数ゼロを達成した。
2	事業名	英語教育の強化
	進捗状況	2年生のイングリッシュ・キャンプ、3年生のオーストラリア語学研修という目標設定を明確にし、4技能を強化する授業展開を強化している。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	「スピーキングテスト」や IGS 社の Espire 教材の導入で刺激を受けた生徒が、高等学校でも同様の指導を希望するなど、授業、教材両面でのモチベーションアップに成功した。 その結果、中 3 の英検資格保持者数は 2 級以上 19%、準 2 級以上 60%、3 級以上 89% に及んだ。 高校でのモチベーション維持を課題とし中高の連携をさらに強化する。
3	事業名	大会入賞・難関資格取得の促進
	進捗状況	教員と保護者が協力して、運動系、文化系ともにクラブ活動を充実させている。危険物取扱者資格等の難関資格や、科学の甲子園ジュニア・FLL・英検にも挑戦させ、学校価値を高めている。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	初参加の FLL (ファーストレゴリーグ) では全国大会出場を果たし、科学の甲子園ジュニアでは B 部門で山梨県最優秀となるなど、理科系分野での活躍が目立った。 英語では高円宮杯全国大会で 10 位入賞し、多数回出場校として学校表彰を受けるなど、学校価値を高めた。 運動分野では市・県の上位入賞者がのべ 40 に上りテニス、バドミントン、空手の活躍が目立った。 小規模校ゆえの大人数部活の活躍がないことが学校の魅力創出を妨げている。募集に注力し生徒数増加につなげたい。
4	事業名	系列学校連携の促進
	進捗状況	ユネスコスクール申請は、すべての系列校で申請を済ませた。各接続校種間での情報交換が順調に進んでおり、学業・文化面での交流が見られる。
	成 果 〔点検自己評価、課題、改善策等〕	接続校間の生徒情報の共有が緊密に図られ、入学の前から支援を必要とする生徒に対する対策ができる。 中高では数学オリンピック対策講座に両校から参加し、刺激しあった結果「数学オリンピック」「数学オリンピックジュニア」のそれぞれで上位進出を果たした。 今後、小中の生徒児童の交流を企画して一貫校の意識を持たせ、さらに広報に努める。

## 7 小学校における教育・研究活動等に関する事項

1	事業名	国際バカロレア (PYP) の取組
	進捗状況	2018 年度計画目標達成 PYP 候補校から認定校へ決定
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	2018 年度内に学校教育法第 1 条に規定する学校として PYP 認定校に全国で 4 番目に指定された。幼小の連携プログラムとしては全国初の栄誉も手にすることことができた。予算も措置された額内に収まり、2019 年度の活動の充実に向けて一層の努力と研鑽を積んでいく。 新任教員は IB 研修を受講する必要があり、2019 年度内に研修させる予定である。今後は、おなじ IB 校との連携や留学が行えないかの可能性を模索する。

	事業名	英語教育の強化
	進捗状況	2018年度計画目標おおむね達成 TOEFL primary、英検などの外部試験の積極的な導入
2	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	能力別の英語学習の成果として、英検3級の取得児童が1割ほど増加した。本校オリジナル教科書の有効性も検証でき、今後も加除修正していく。 また、TOEFL primaryでは世界の受験者の7%に当たる上位成績を修めたものが本校から3名選出されるなど、高度な英語学習の強化がよい方向に進みつつある。 2019年度は中学校とのカリキュラム連携をもっと深めていくよう努めたい。また新規事業として東京インターナショナルスクールの英語プログラム導入とそのための教員育成の準備を進める予定である。
3	事業名	教育環境の充実
	進捗状況	2018年度計画目標おおむね達成 机、椅子等の整備・新バスルートの調査と試行実施
3	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	低学年の児童数増加に伴う環境整備の措置として、机を新たに購入いただき、対応することができた。 また、新ルートの試走もうまくいき、2019年度に新ルートが改めて開通できたのは大きな成果である。スタートから20名を超える児童が利用することができたのは成果としてはまずまずだと考える。 今後利用児童の拡充、募集地域の拡充につなげたい。2019年秋に新バス購入があるため、それまでは中古バスによる運行になるが、安全に十分留意してバス運行事業を進めたい。
4	事業名	系列学校連携の促進
	進捗状況	2018年度計画目標 70%程度達成 幼稚園との連携は充実 中学校連携が課題
4	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	事業目標の幼稚園と連携したPYPの活動はおおむね達成でき、充実したものになった。 しかし、中学校とのカリキュラム連携には英語等を中心に、まだまだ系統的なつながりにおいて課題が残った。 広報活動に関しては新聞等で中高の掲載に合わせていただくことができ、予算的には合理的に進めることができた。 2019年度は中学校カリキュラムとの連携もしっかりと行うことで、目標達成を完遂したい。

## 8 幼稚園における教育・研究活動等に関する事項

	事業名	国際バカロレア（PYP）認定に向けた取組
	進捗状況	2019年2月8日付で小学校とともに国際バカロレアPYP認定校となった。
1	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	国際バカロレアの教育理念・内容・方法等の導入により、子どもたちの好奇心、探究心を刺激し思考力、表現力、協働性を活性化する教育実践の質の向上を図った。 保護者アンケートでも「国際バカロレアPYP導入を通して、子どもたちの探究を大切にした保育がなされていた」に対し「とても思う」84%、「思う」16%と高い評価を得た。 学校教育法第一条に規定されている学校で、幼小9年間PYP認定は全国初であり、新聞やテレビニュースでも取りあげられた。 これらを通して、幼小一貫教育、グローバル化に対応した先進的な教育に取り組む幼稚園としての特色をうちだすことができた。
2	事業名	幼児期からの「多文化教育」の推進
	進捗状況	「多文化教育」の充実に引き続き取り組んだ。
2	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	留学生等を迎える、異なる文化を背景にもつ「人」と園児が直接出会い、楽しく触れ合える機会を多彩に設けた。 2018年度は特に多文化に関する探究活動の成果を年長児が保護者の前で発表する機会を設けることができた。 保護者アンケートでも「多文化教育に関わる取組が積極的になされていた」に対し「とても思う」79%、「思う」20%と高い評価を得た。

	事業名	地域の子育て家庭の今日的ニーズへの積極的対応
	進捗状況	満3歳児入園希望者の積極的受け入れ、2歳児クラスの拡充、課外活動「ピープル英会話教室」の導入をおこなった。
3	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	10名を超える満3歳児入園希望者を受け入れた。2歳児クラスの受入数を増加しつつも保育の質を維持した。 保護者アンケートでは「子どもを大切にした愛情深い保育」「クラスの雰囲気や教職員の対応はあたたかく親しみをもてた」のいずれでも「とても思う」が100%と極めて高い評価を得た。 課外活動として導入した「ピープル英会話教室」も好評で、保護者アンケートでも導入に対し「とてもよかったです」「よかった」があわせて100%であった。 短期大学保育科と協力して「子育て講演会」も実施し、100名を超える参加者を得た。
	事業名	系列学校連携の促進
4	進捗状況	系列学校連携を一層促進することができた。
	成 果 〔自己点検評価、課題、改善策等〕	国際バカロレア PYPに関わる取組をはじめ、小学校との連携を一層強化した。園児・小学校児童の相互交流の機会は例年より多く設けることができた。 短期大学、大学と連携し、体育的活動の充実を図ることもできた。

### III 2019年度に向けて

2018（平成30）年度は新理事長が就任、任期満了に伴い役員（理事・監事）も改選され、本学園にとって新しいスタートとも言える1年であった。これまで、学園の指針として、「創造性」と「チャレンジ精神」を掲げ、学校自らが学生たちに挑戦する背中を見せるべく、本学の創造性の追求と教育改革への挑戦を重ねてきたが、今後は2つのC2C（「Curiosity to Creativity（好奇心を働かせて創造性を發揮する）」、「Challenge to Change（変化を楽しむチャレンジ精神）」）を学園哲学として定め、スピード感をもちながら学校運営や業務改善に取り組んでいくとともに、幼稚教育から高等教育までの学校体系一貫を生かした総合学園として、山梨学院ならではの教育活動を推進し、ブランド化の一層の強化・充実を図っていく。

### 3 財務の概要

#### ■ 平成30年度決算の概要

#### 資 金 収 支 計 算 書

平成30年4月1日から  
平成31年3月31日まで

(単位:円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	5,654,427,000	5,695,598,587	△ 41,171,587
手数料収入	76,890,000	98,882,350	△ 21,992,350
寄付金収入	36,100,000	42,421,000	△ 6,321,000
補助金収入	1,117,803,000	1,091,803,024	25,999,976
国庫補助金収入	504,239,000	476,045,000	28,194,000
地方公共団体補助金収入	610,969,000	611,913,884	△ 944,884
その他の補助金収入	2,595,000	3,844,140	△ 1,249,140
資産売却収入	0	112,050,000	△ 112,050,000
付随事業・収益事業収入	549,676,000	459,788,854	89,887,146
受取利息・配当金収入	453,000	1,086,411	△ 633,411
雑収入	373,039,000	375,018,849	△ 1,979,849
借入金等収入	700,000,000	700,000,000	0
前受金収入	2,284,459,000	2,737,223,075	△ 452,764,075
その他の収入	202,752,403	270,013,152	△ 67,260,749
資金収入調整勘定	△ 2,924,143,208	△ 2,842,548,949	△ 81,594,259
前年度繰越支払資金	4,493,635,055	4,493,635,055	
収入の部合計	12,565,091,250	13,234,971,408	△ 669,880,158
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	4,087,219,000	4,022,483,037	64,735,963
教育研究経費支出	2,227,215,000	2,109,275,395	117,939,605
管理経費支出	632,701,000	657,754,916	△ 25,053,916
借入金等利息支出	1,644,000	1,093,157	550,843
借入金等返済支出	30,100,000	29,800,000	300,000
施設関係支出	1,056,595,000	986,345,779	70,249,221
設備関係支出	301,010,000	297,010,318	3,999,682
資産運用支出	105,000,000	105,000,010	△ 10
その他の支出	561,721,650	616,912,020	△ 55,190,370
資金支出調整勘定	△ 332,400,000	△ 751,552,399	419,152,399
翌年度繰越支払資金	3,894,285,600	5,160,849,175	△ 1,266,563,575
支出の部合計	12,565,091,250	13,234,971,408	△ 669,880,158

## 活動区分資金収支計算書

平成30年4月 1日から  
平成31年3月31日まで

		(単位:円)
教育活動による資金収支	科 目	金額
	学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	5,695,598,587
	手 数 料 収 入	98,882,350
	一 般 寄 付 金 収 入	42,421,000
	経 常 費 等 補 助 金 収 入	1,091,803,024
	付 隨 事 業 収 入	459,788,854
	雜 収 入	375,018,849
	教 育 活 動 資 金 収 入 計	7,763,512,664
	人 件 費 支 出	4,022,483,037
	教 育 研 究 経 費 支 出	2,109,275,395
施設整備等活動による資金収支	管 理 経 費 支 出	657,754,916
	教 育 活 動 資 金 支 出 計	6,789,513,348
	差 引	973,999,316
	調 整 勘 定	121,243,496
	教 育 活 動 資 金 収 支 差 額	1,095,242,812
	科 目	金額
	施 設 設 備 売 却 収 入	9,050,000
	施 設 整 備 等 活 動 資 金 収 入 計	9,050,000
	施 設 関 係 支 出	986,345,779
	設 備 関 係 支 出	297,010,318
その他の活動による資金収支	施 設 整 備 等 活 動 資 金 支 出 計	1,283,356,097
	差 引	△ 1,274,306,097
	調 整 勘 定	166,275,545
	施 設 整 備 等 活 動 資 金 収 支 差 額	△ 1,108,030,552
	小 計 (教育活動資金収支差額 + 施設整備等活動資金収支差額)	△ 12,787,740
	科 目	金額
	借 入 金 等 収 入	700,000,000
	貯 蓄 保 険 満 期 収 入	103,000,000
	預 り 金 受 入 収 入	5,678,075
その他の活動による資金収支	貸 付 金 回 収 収 入	8,925,000
	仮 払 金 回 収 収 入	78,666,739
	小 計	896,269,814
	受 取 利 息 ・ 配 当 金 収 入	1,086,411
	そ の 他 の 活 動 資 金 収 入 計	897,356,225
	借 入 金 等 返 済 支 出	29,800,000
	有 価 証 券 購 入 支 出	100,000,010
	第 3 号 基 本 金 引 当 特 定 資 産 繰 入 支 出	5,000,000
	貸 付 金 支 払 支 出	6,900,000
	仮 払 金 支 払 支 出	74,561,198
その他の活動による資金収支	小 計	216,261,208
	借 入 金 等 利 息 支 出	1,093,157
	そ の 他 の 活 動 資 金 支 出 計	217,354,365
	差 引	680,001,860
	調 整 勘 定	0
	そ の 他 の 活 動 資 金 収 支 差 額	680,001,860
	支 払 資 金 の 増 減 額 (小計 + そ の 他 の 活 動 資 金 収 支 差 額)	667,214,120
	前 年 度 繰 越 支 払 資 金	4,493,635,055
	翌 年 度 繰 越 支 払 資 金	5,160,849,175

# 事業活動収支計算書

平成30年4月 1日から  
平成31年3月31日まで

(単位:円)

事業活動収入の部 教育活動収支	科 目	予 算	決 算	差 異
	学 生 生 徒 等 納 付 金	5,654,427,000	5,695,598,587	△ 41,171,587
	手 数 料	76,890,000	98,882,350	△ 21,992,350
	寄 付 金	36,100,000	42,421,000	△ 6,321,000
	経 常 費 等 補 助 金	1,117,803,000	1,091,803,024	25,999,976
	国 庫 補 助 金	504,239,000	476,045,000	28,194,000
	地 方 公 共 団 体 補 助 金	610,969,000	611,913,884	△ 944,884
	そ の 他 の 補 助 金	2,595,000	3,844,140	△ 1,249,140
	付 隨 事 業 収 入	549,676,000	459,788,854	89,887,146
	雜 収 入	373,039,000	375,018,849	△ 1,979,849
教 育 活 動 収 入 計	7,807,935,000	7,763,512,664		44,422,336
事業活動支出の部 教育活動支出	科 目	予 算	決 算	差 異
	人 件 費	4,151,819,000	4,068,755,291	83,063,709
	教 育 研 究 経 費	3,315,315,000	3,135,913,573	179,401,427
	管 理 経 費	802,701,000	874,862,802	△ 72,161,802
	徴 収 不 能 額	500,000	2,356,670	△ 1,856,670
教 育 活 動 支 出 計	8,270,335,000	8,081,888,336		188,446,664
教 育 活 動 収 支 差 額	△ 462,400,000	△ 318,375,672		△ 144,024,328
事業活動収入の部 教育活動外収支	科 目	予 算	決 算	差 異
	受 取 利 息 ・ 配 当 金	453,000	1,086,411	△ 633,411
	そ の 他 の 教 育 活 動 外 収 入	0	0	0
	教 育 活 動 外 収 入 計	453,000	1,086,411	△ 633,411
事業活動支出の部 教育活動外支出	科 目	予 算	決 算	差 異
	借 入 金 等 利 息	1,644,000	1,093,157	550,843
	そ の 他 の 教 育 活 動 外 支 出	0	0	0
	教 育 活 動 外 支 出 計	1,644,000	1,093,157	550,843
教 育 活 動 外 収 支 差 額	△ 1,191,000	△ 6,746		△ 1,184,254
經 常 収 支 差 額	△ 463,591,000	△ 318,382,418		△ 145,208,582
事業活動収入の部 特別収支	科 目	予 算	決 算	差 異
	資 産 売 却 差 額	0	0	0
	そ の 他 の 特 別 収 入	0	5,958,637	△ 5,958,637
	特 別 収 入 計	0	5,958,637	△ 5,958,637
事業活動支出の部 特別支出	科 目	予 算	決 算	差 異
	資 産 処 分 差 額	40,000,000	48,944,122	△ 8,944,122
	そ の 他 の 特 別 支 出	0	0	0
	特 別 支 出 計	40,000,000	48,944,122	△ 8,944,122
特 別 収 支 差 額	△ 40,000,000	△ 42,985,485		2,985,485
基 本 金 組 入 前 当 年 度 収 支 差 額	△ 503,591,000	△ 361,367,903		△ 142,223,097
基 本 金 組 入 額 合 計	△ 552,105,000	△ 135,687,001		△ 416,417,999
当 年 度 収 支 差 額	△ 1,055,696,000	△ 497,054,904		△ 558,641,096
前 年 度 繰 越 収 支 差 額	△ 23,867,893,846	△ 23,867,893,846		0
基 本 金 取 崩 額	0	0		0
翌 年 度 繰 越 収 支 差 額	△ 24,923,589,846	△ 24,364,948,750		△ 558,641,096
(参 考)				
事 業 活 動 収 入 計	7,808,388,000	7,770,557,712		37,830,288
事 業 活 動 支 出 計	8,311,979,000	8,131,925,615		180,053,385

## 貸 借 対 照 表

平成31年3月31日

(単位 円)

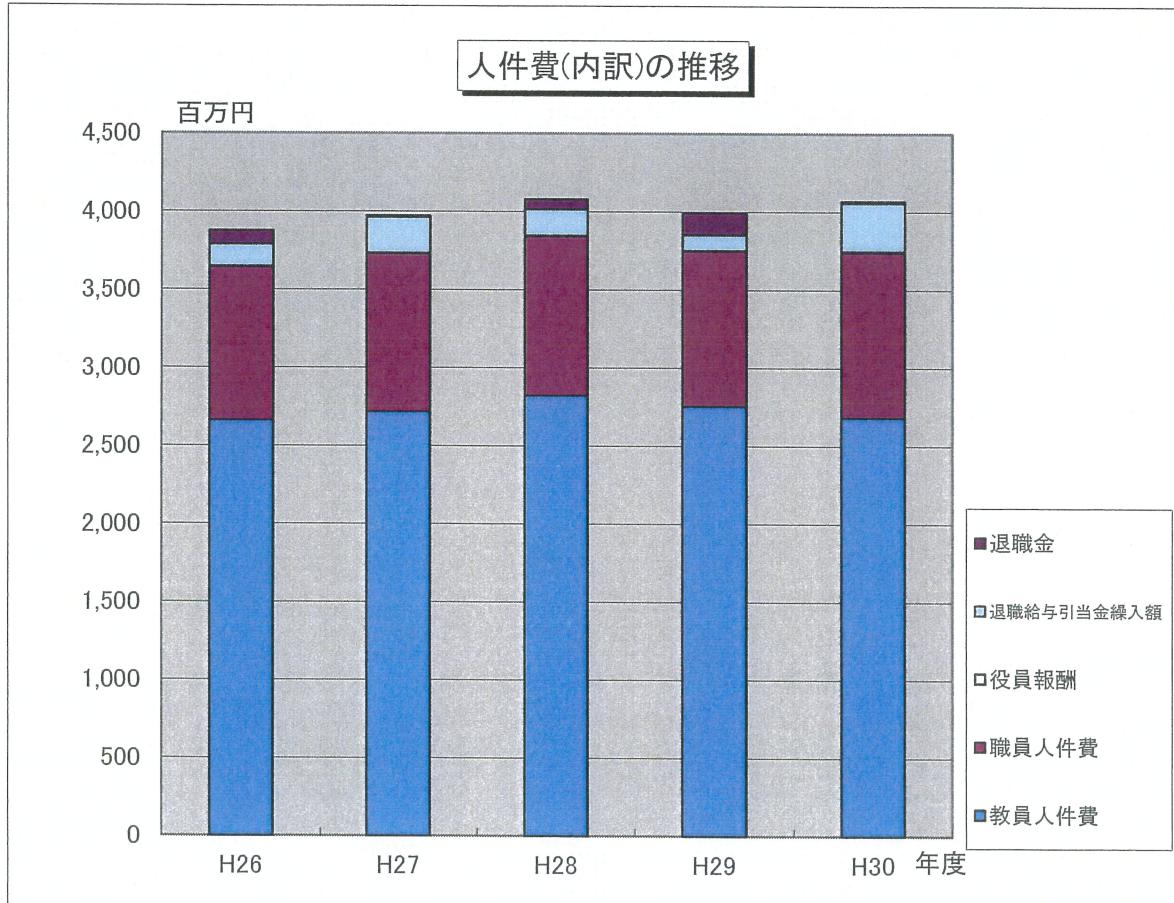
資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 資 産	41,158,378,040	41,173,118,482	△ 14,740,442
有形固定資産	40,507,061,128	40,515,200,706	△ 8,139,578
土地	19,363,559,239	19,346,557,239	17,002,000
建物	17,252,741,334	17,243,656,092	9,085,242
その他の有形固定資産	3,890,760,555	3,924,987,375	△ 34,226,820
特定資産	130,500,000	125,500,000	5,000,000
第3号基本金引当特定資産	130,500,000	125,500,000	5,000,000
その他の固定資産	520,816,912	532,417,776	△ 11,600,864
流動資産	5,441,695,279	4,695,866,967	745,828,312
現金預金	5,160,849,175	4,493,635,055	667,214,120
その他の流動資産	280,846,104	202,231,912	78,614,192
資産の部合計	46,600,073,319	45,868,985,449	731,087,870
負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 負 債	2,354,334,429	1,665,862,175	688,472,254
長期借入金	890,200,000	248,000,000	642,200,000
退職給与引当金	1,464,134,429	1,417,862,175	46,272,254
その他の固定負債	0	0	0
流動負債	3,881,199,645	3,477,216,126	403,983,519
短期借入金	57,800,000	29,800,000	28,000,000
前受金	2,737,223,075	2,583,019,208	154,203,867
その他の流動負債	1,086,176,570	864,396,918	221,779,652
負債の部合計	6,235,534,074	5,143,078,301	1,092,455,773
純資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
基 本 金	64,729,487,995	64,593,800,994	135,687,001
第1号基本金	64,056,987,995	63,926,300,994	130,687,001
第3号基本金	130,500,000	125,500,000	5,000,000
第4号基本金	542,000,000	542,000,000	0
繰越収支差額	△ 24,364,948,750	△ 23,867,893,846	△ 497,054,904
純資産の部合計	40,364,539,245	40,725,907,148	△ 361,367,903
負債及び純資産の部合計	46,600,073,319	45,868,985,449	731,087,870

## 財務比率などの推移

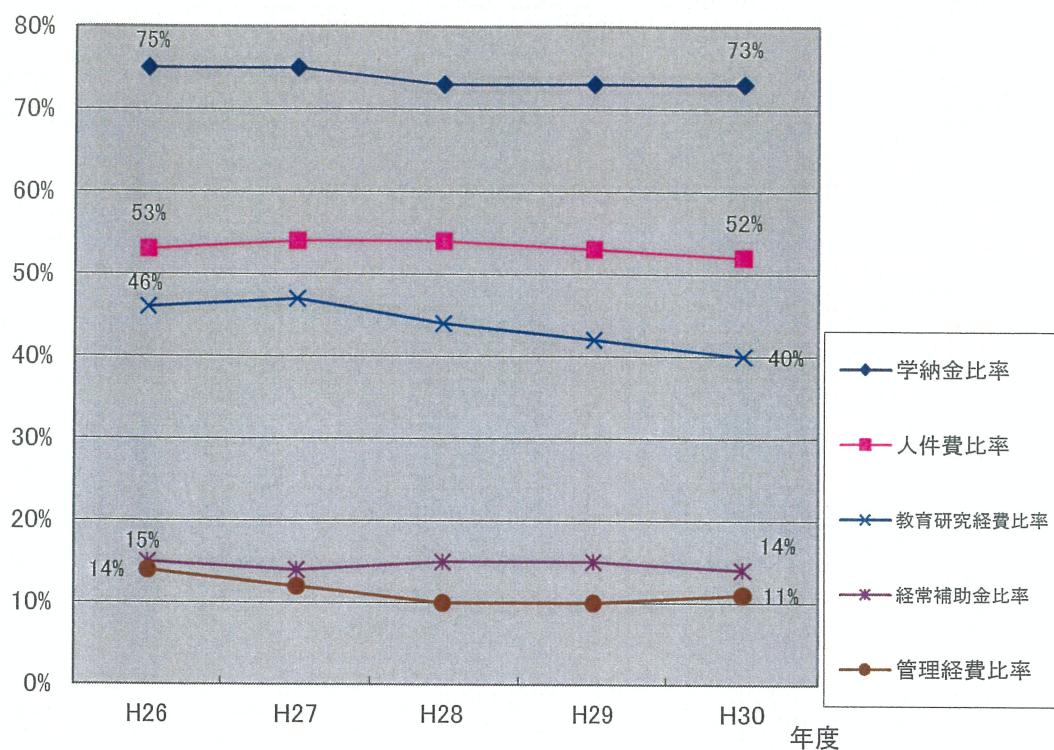
主要事業活動収支計算書関係比率

	比 率	計 算 式	平成29年度	平成30年度	前年増減
1	人 件 費 比 率	人件費 _____ 経常収入	52.79 %	52.40 %	-0.39 %
2	教 育 研 究 経 費 比 率	教育研究経費 _____ 経常収入	42.14 %	40.39 %	-1.76 %
3	管 理 経 費 比 率	管理経費 _____ 経常収入	10.11 %	11.27 %	1.15 %
4	借 入 金 等 利 息 比 率	借入金等利息 _____ 経常収入	0.00 %	0.01 %	0.01 %
5	事 業 活 動 収 支 差 額 比 率	基本金組入前当年度収支差額 _____ 事業活動収入	-4.98 %	-4.65 %	0.33 %

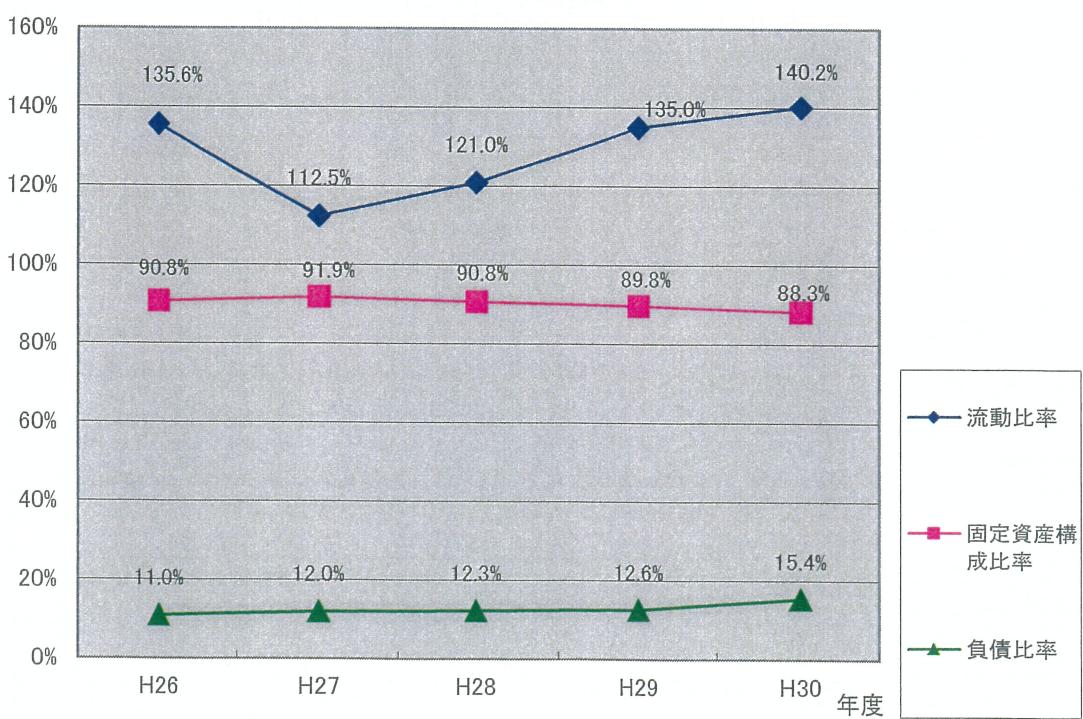
(注)「経常収入」=教育活動収入計+教育活動外収入計 「経常支出」=教育活動支出計+教育活動外支出計



### 事業活動収支計算書関係比率の推移



### 貸借対照表関係比率の推移



流動比率 --- 短期的な負債の償還に対する流動資産の割合で、支払能力を示す指標

固定資産構成比率 --- 固定資産の構成割合で、資産の構成バランスを見るための指標

負債比率 --- 他人資金が自己資金を上回っていないかどうかを見る指標（総負債/純資産）

**財産目録**  
(平成31年3月31日現在)

I 資産総額 46,600,073,319円

内 基本財産	40,507,061,128円
運用財産	6,093,012,191円

II 負債総額 6,235,534,074円

III 正味財産 40,364,539,245円

区分	金額
<b>資産</b>	
1 基本財産	
土地	811,139.15m <sup>2</sup>
建物	132,802.71m <sup>2</sup>
構築物	1,008点
図書	394,746冊
教育研究用機器備品及び管理用機器備品、車両	53,418点
教育研究用備品	47,345点
管理用機器備品	6,028点
車両	45台
建設仮勘定	
計	40,507,061,128円
2 運用財産	
預貯金・現金	5,160,849,175円
預貯金	5,155,086,984円
現金	5,762,191円
特定資産	130,500,000円
有価証券	315,477,811円
未収入金	262,485,821円
電話加入権	4,953,713円
施設利用権	5,000,000円
長期貸付金	62,045,000円
その他	151,700,671円
計	6,093,012,191円
資産総額	46,600,073,319円
<b>負債</b>	
1 固定負債	
長期借入金	890,200,000円
退職給与引当金	1,464,134,429円
2 流動負債	
短期借入金	57,800,000円
未払金	751,552,399円
前受金	2,737,223,075円
預り金	334,624,171円
負債総額	6,235,534,074円
正味財産(資産総額-負債総額)	40,364,539,245円
<b>借用財産</b>	
土地	18,594.65m <sup>2</sup>

2019年5月21日

2018年度

学校法人山梨学院監事監査報告書

学校法人 山梨学院

理事長 古屋光司 殿

学校法人 山梨学院

監事（常勤）

監事

監事

監事

廣瀬芳喜



小林日登士



私たちは、私立学校法第37条第3項及び学校法人山梨学院寄附行為第14条の規定に基づき、学校法人山梨学院の2018年度（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の業務並びに財産の状況について監査しました。

監査に当たり、理事会及び評議員会に出席して理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するとともに、会計監査人と連携して計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び付属明細表）並びに財産目録について検討するなど、必要と思われる監査手続を行いました。

監査の結果、学校法人山梨学院の業務に関する決定及び執行は適切であり、計算書類並びに財産目録は会計帳簿の記載と合致し、その収支及び財産の状況を正しく示しており、業務又は財産に関する不正の行為、または、法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以上